



東証 : 4502

TAK
LISTED
NYSE

成長と株主還元への コミットメント

2023年度第2四半期決算発表

2023年10月26日



重要な注意事項



本注意事項において、「プレゼンテーション（presentation）」とは、本プレゼンテーションに関して武田薬品工業株式会社（以下、「**武田薬品**」）によって説明又は配布された本書類並びに一切の口頭のプレゼンテーション、質疑応答及び書面又は口頭の資料を意味します。本プレゼンテーション（それに関する口頭の説明及び質疑応答を含みます）は、いかなる法域においても、いかなる有価証券の購入、取得、申込み、交換、売却その他の処分の提案、案内若しくは勧誘又はいかなる投票若しくは承認の勧誘のいずれの一部を構成、表明又は形成するものではなく、またこれを行うことを意図しておりません。本プレゼンテーションにより株式又は有価証券の募集を公に行うものではありません。米国 1933 年証券法の登録又は登録免除の要件に基づいて行うものを除き、米国において有価証券の募集は行われません。本プレゼンテーションは、（投資、取得、処分その他の取引の検討のためではなく）情報提供のみを目的として受領者により使用されるという条件の下で（受領者に対して提供される追加情報と共に）提供されております。当該制限を遵守しなかった場合には、適用のある証券法違反となる可能性があります。

武田薬品が直接的に、又は間接的に投資している会社は別々の会社になります。本プレゼンテーションにおいて、「武田薬品」という用語は、武田薬品及びその子会社全般を参照するものとして便宜上使われていることがあり得ます。同様に、「当社（we、us及びour）」という用語は、子会社全般又はそこで勤務する者を参照していることもあり得ます。これらの用語は、特定の会社を明らかにすることが有益な目的を与えない場合に用いられることもあり得ます。

本プレゼンテーションに記載されている製品名は、武田薬品又は各所有者の商標又は登録商標です。

将来に関する見通し情報

本プレゼンテーション及び本プレゼンテーションに関して配布された資料には、武田薬品の見積もり、予測、目標及び計画を含む武田薬品の将来の事業、将来のポジション及び業績に関する将来見通し情報、理念又は見解が含まれています。将来見通し情報は、「目標にする（targets）」、「計画する（plans）」、「信じる（believes）」、「望む（hopes）」、「継続する（continues）」、「期待する（expects）」、「めざす（aims）」、「意図する（intends）」、「確実にする（ensures）」、「だろう（will）」、「かもしれない（may）」、「すべきであろう（should）」、「であろう（would）」、「かもしれない（could）」、「予想される（anticipates）」、「見込む（estimates）」、「予想する（projects）」などの用語若しくは同様の表現又はそれらの否定表現を含むことが多いですが、それに限られるものではありません。これら将来見通し情報は、多くの重要な要因に関する前提に基づいており、実際の結果は、将来見通し情報において明示又は暗示された将来の結果とは大きく異なる可能性があります。その重要な要因には、日本及び米国の一般的な経済条件を含む武田薬品のグローバルな事業を取り巻く経済状況、競合製品の出現と開発、世界的な医療制度改革を含む関連法規の変更、臨床的成功及び規制当局による判断とその時期の不確実性を含む新製品開発に内在する困難、新製品及び既存製品の商業的成功の不確実性、製造における困難又は遅延、金利及び為替の変動、市場で販売された製品又は候補製品の安全性又は有効性に関するクレーム又は懸念、新規コロナウイルス・パンデミックのような健康危機が、武田薬品が事業を行う国の政府を含む武田薬品とその顧客及び供給業者又は武田薬品の事業の他の側面に及ぼす影響、買収対象企業とのPMI（買収後の統合活動）の時期及び影響、武田薬品の事業にとっての非中核資産を売却する能力及びかかる資産売却のタイミング、当社による省エネルギーへの取り組み及び将来の再生可能エネルギー又は低炭素エネルギー技術の発展による当社の温室効果ガス排出量の削減の程度、武田薬品のウェブサイト（<https://www.takeda.com/jp/investors/sec-filings-and-security-reports/>）又はwww.sec.govにおいて閲覧可能な米国証券取引委員会に提出したForm 20-Fによる最新の年次報告書並びに武田薬品の他の報告書において特定されたその他の要因が含まれます。武田薬品は、法律や証券取引所の規則により要請される場合を除き、本プレゼンテーションに含まれる、又は武田薬品が提示するいかなる将来見通し情報を更新する義務を負うものではありません。過去の実績は将来の経営結果の指針とはならず、また、本プレゼンテーションにおける武田薬品の経営結果及び情報は武田薬品の将来の経営結果を示すものではなく、また、その予測、予想、保証又は見積もりではありません。

財務情報及び国際会計基準に準拠しない財務指標

武田薬品の財務諸表は、国際会計基準（以下、「IFRS」）に基づいて作成されております。本プレゼンテーションには、Core売上収益、Core営業利益、Core当期利益、Core EPS、CER（Constant Exchange Rate：恒常為替レート）ベースの増減、純有利子負債、EBITDA、調整後EBITDA、フリー・キャッシュ・フローのように、IFRSに準拠しない財務指標が含まれています。当社経営陣は業績評価並びに経営及び投資判断を、IFRS及び本プレゼンテーションに含まれるIFRSに準拠しない財務指標に基づいて行っています。IFRSに準拠しない財務指標においては、最も良く対応するIFRS財務指標では含まれることとなる、又は異なる数値となる一定の利益、コスト及びキャッシュ・フロー項目を除外しております。IFRSに準拠しない財務指標を提供することで、当社経営陣は、投資家の皆様に対し、武田薬品の経営状況及びCore業績の更なる分析のための為替変動の影響を含む付加的な情報を提供したいと考えております。IFRSに準拠しない財務指標は、IFRSに準拠するものではなく、付加的なものであり、また、IFRSに準拠する財務指標に代替するものではありません（IFRSに準拠する財務指標を「財務ベース」指標として参照している場合があります）。投資家の皆様におかれましては、IFRSに準拠しない財務指標につき、本プレゼンテーションの巻末に掲載した財務補足情報にて、これらに最も良く対応するIFRS準拠財務指標との照合を行っていただければ幸いです。

為替

本プレゼンテーションでは、特に断りのない限り、利用者の便宜のために、日本円で表示された一部の金額をニューヨーク連邦準備銀行が2023年9月29日に認定した正午時点の買値レートである1米ドル=149.43円で米ドルに換算しています。これらの便宜的な換算に使用された買値レート及び換算方法は、当社の連結財務諸表に使用されるIFRSの換算レート及び換算方法とは異なります。これらの便宜的な換算は、関連する日本円のコストが当該買値レート又は他のレートで米ドルに換算されうること示すものではありません。

医療情報

- 2 本プレゼンテーションには、製品に関する情報が含まれておりますが、それらの製品は、すべての国で発売されているものではなく、また国によって異なる商標、効能、用量等で販売されている場合もあります。ここに記載されている情報は、開発品を含むいかなる医療用医薬品を勧誘、宣伝又は広告するものではありません。

AGENDA

Introduction

クリストフ・ウェバー

代表取締役社長 CEO



パイプラインアップデート

アンディー・プランプ

リサーチ&デベロップメント

プレジデント



財務報告

コスタ・サルウコス

チーフ フィナンシャル オフィサー



質疑応答

世界中の人々の健康と、 輝かしい未来に貢献する



私たちはこの約束を胸に、
革新的な医薬品を創出し続けます。

PATIENT

すべての患者さんのために

- 私たちは、倫理観をもってサイエンスの革新性を追求します。そして、人々の暮らしを豊かにする医薬品の創出に取り組みます。
- 私たちの医薬品を、より多くの人々に迅速にお届けします

PEOPLE

ともに働く仲間のために

- 私たちは、理想的な働き方を実現します。

PLANET

いのちを育む地球のために

- 私たちは、自然環境の保全に寄与します

データとデジタルの力で、イノベーションを起こします

- サイエンスに基づき、もっとも信頼されるデジタルバイオ医薬品企業として、これからも変革し続けます。

私たちが大切にしている価値観である
タケダイズムとは、まず**誠実**であること。
そして、**公正・正直・不屈**の精神で
支えられています。

私たちはこれを道しるべとしながら、

1. 患者さんに寄り添い (**Patient**)
2. 人々と信頼関係を築き (**Trust**)
3. 社会的評価を向上させ (**Reputation**)
4. 事業を発展させる (**Business**)

を日々の行動指針とします。

2023年度上期：マネジメントガイダンスに向け着実な進捗 非資金性の無形資産減損損失が財務ベースの利益に影響



トップラインは成長製品・新製品が牽引

- 上期の売上収益は、**+1.4%成長（CERベース）**¹
成長製品・新製品の**+13%成長（CERベース）**が牽引
- VYVANSEの米国における後発品参入による影響は、現時点で想定通り
- Core営業利益は、利益率が高い製品の独占販売期間満了による影響と研究開発およびデータ&テクノロジーへの投資を反映
- 財務ベースの営業利益およびEPSは、第2四半期に計上した無形資産の減損損失を含むノン・コアの項目に関する要因が影響

通期マネジメントガイダンスは変更なし

- 財務ベースの業績予想修正は、第2四半期に計上したノン・コアの項目に関する要因と為替前提の変更を反映
- Core EPSの通期予想を**447円**に上方修正
- 通期マネジメントガイダンス（CERベースの増減率）は変更なし
独占販売期間満了による大幅なマイナス影響、新型コロナウイルスワクチンの減収（対前年）、長期的な競争力を確保するための研究開発およびデータ&テクノロジーへの投資を反映

2023年度上期 業績サマリー

	財務ベース		CORE ²		
	2023年度 上期	実勢レート ベース 増減率 (%)	2023年度 上期	実勢レート ベース 増減率 (%)	CER ¹ ベース 増減率 (%)
売上収益	21,017	+6.4%	21,017	+6.4%	+1.4%
営業利益	1,192	△53.2%	5,888	△5.8%	△9.5%
EPS	27円	△75.4%	261円	△9.4%	△14.4%

2023年度通期マネジメントガイダンス

（2023年5月から変更なし）

CORE増減率（CERベース）	
売上収益	一桁台前半%の減少
営業利益	10%台前半の減少
EPS（円）	20%台前半の減少

2023年度第2四半期 事業アップデート：長期的な成長に向けた戦略の実行



既存ポートフォリオの価値を最大化



- 米国食品医薬品局（FDA）より潰瘍性大腸炎に対する皮下投与製剤の承認取得¹
クローン病に対する皮下投与製剤の審査が進行中



- 世界保健機関（WHO）の予防接種に関する戦略的諮問委員会（SAGE）が、デング熱の疾病負担が重く、感染率の高い地域における6歳から16歳を対象とした導入を推奨



- 当社として国内初の皮下投与の免疫グロブリン製剤が承認²



- 欧州において、ホジキンリンパ腫の一次治療におけるステージⅢの患者さんに対する適応拡大が承認



革新的なパイプラインの発展を推し進める

- TAK-721を好酸球性食道炎の治療薬としてFDAに再申請
- TAK-279は、乾癬性関節炎を対象とした臨床第2b相試験で良好な結果
全解析結果は11月の米国リウマチ学会において発表予定
- Fruquintinibは、治療歴を有する転移性大腸がんを対象に国内で申請
- TAK-755は、先天性血栓性血小板減少性紫斑病（cTTP）を対象に国内で申請
- 抗葉酸受容体α（FRα）高発現の卵巣がんに対する治療薬mirvetuximab soravtansine-gynxの、日本を対象とした独占的開発・販売に関するライセンス権をImmunoGen社から取得

- EXCLAIM-2検証試験の結果に基づき、当社は全世界でEXKIVITYの自主的な取り下げを開始予定
- 米国申請を想定して実施したALOFISELの臨床第3相ADMIRE-CD II 試験は、主要評価項目を満たさなかった
安全性プロファイルはこれまでの臨床試験と一致

ENTYVIO Pen（皮下投与製剤）の上市は、今後の成長を牽引する重要なマイルストーン



市場シェアで第1位を維持

ENTYVIOは、米国における炎症性腸疾患（IBD）の市場全体および生物学的製剤ナイブの患者さんへ新規に処方された治療薬の中で市場シェア第1位を維持、世界的なシェア拡大を継続

- 欧州では、価格引き下げの影響を受けるものの、ENTYVIOの処方量は約15%の堅調な伸びを維持し、IBDにおける先進的治療薬の市場全体の伸びを上回る
- 米国では、IBD市場は成長しているものの、診断や先進的治療薬の開始は2016年～2019年と比較し抑制されたままである
- 中等症から重症の患者さんの大多数が未治療もしくは従来型の治療を受けていることから、先進的治療薬には依然として大きな市場機会が存在する



ターゲットを絞った投資により継続的な成長を見通す

短期的には米国におけるEntyvio Pen（皮下投与製剤）を通じた成長機会に注力

- 皮下投与製剤の承認（2023年9月）：ENTYVIOは、潰瘍性大腸炎の維持療法として静脈注射と皮下投与の両方の選択肢を持つ、FDAに承認された唯一の生物学的製剤
- クローン病に対する皮下投与製剤も2023年9月にFDAがBLAを受理
- 皮下投与製剤による治療は、米国における炎症性腸疾患全体の約35-40%を占めると推定

新規または継続中のライフ・サイクル・マネジメントにより長期的な成長を実現

- 潰瘍性大腸炎とクローン病の臨床試験に大幅な投資を行い、疾患クリアランスや全層性治癒といった治療目標をサポート
- Vedolizumabをバックボーン治療薬とし、有効性の限界を超える併用療法の潜在的な役割を評価するため、科学界を支援する新たな試験が開始

QDENGGA：流行国および渡航者用ワクチン市場で良好な勢い 世界保健機関（WHO）の戦略的諮問委員会（SAGE）が推奨



流行国の民間市場で好調な立ち上がり 欧州を中心とした渡航者用ワクチン市場での力強い上市

- 流行国：インドネシア、ブラジル、タイで上市し、民間市場での高い初期需要を確認。直近ではコロンビアで承認され、アルゼンチンでは2023年度第3四半期に上市予定
- 渡航者用ワクチン市場：欧州16カ国*で接種可能。現在までに発表された様々な渡航勧告では、デング熱流行地域への渡航者の感染予防にQDENGGAの使用が推奨されている
- 政府、企業、民間団体（NGO）、製造業者を含めた民間および公的機関とのパートナーシップを推進し、アクセスの拡大を図る



SAGEによる推奨は公的予防接種プログラムの 意思決定を加速させる可能性

- WHOのSAGEの予防接種専門家は、デング熱の疾病負担が重く感染率の高い地域において、6歳から16歳の小児を対象とした公的予防接種プログラムにQDENGGAを推奨
- 28,000人以上を対象としたQDENGGAの19件の臨床プログラムのデータに基づく評価



*ドイツ、フィンランド、スウェーデン、ノルウェー、デンマーク、オーストリア、オランダ、ベルギー、英国、アイルランド、ポルトガル、スペイン、スロバキア、イタリア、ルクセンブルク、チェコ共和国

成長と株主還元へのコミットメント



短期
(2024-2025年度)

中期
(2026年度-2030年代初頭)

長期
(2030年代以降)

売上収益・利益・利益率の成長へ回帰

成長製品・新製品の持続的な拡大

革新的な後期開発パイプラインのさらなる上市

Entyvioのバイオシミラーが上市されるまで独占販売期間満了の影響は限定的

約40の新規候補物質からなる開発パイプラインを含めた、強固な研究開発戦略のさらなる貢献

- Core営業利益率30%台前半から半ばへの回復
- データ、デジタル、テクノロジーの活用による生産性の向上
- 候補物質にターゲットを絞った事業開発を継続し、パイプラインを強化
- 毎年の年間配当金を増額または維持する累進的な配当方針

AGENDA

Introduction

クリストフ・ウェバー

代表取締役社長 CEO

パイプラインアップデート

アンディー・プランプ

リサーチ&デベロップメント

プレジデント



財務報告

コスタ・サルウコス

チーフ フィナンシャル オフィサー

質疑応答

2023年度第1四半期以降の主なパイプラインアップデート

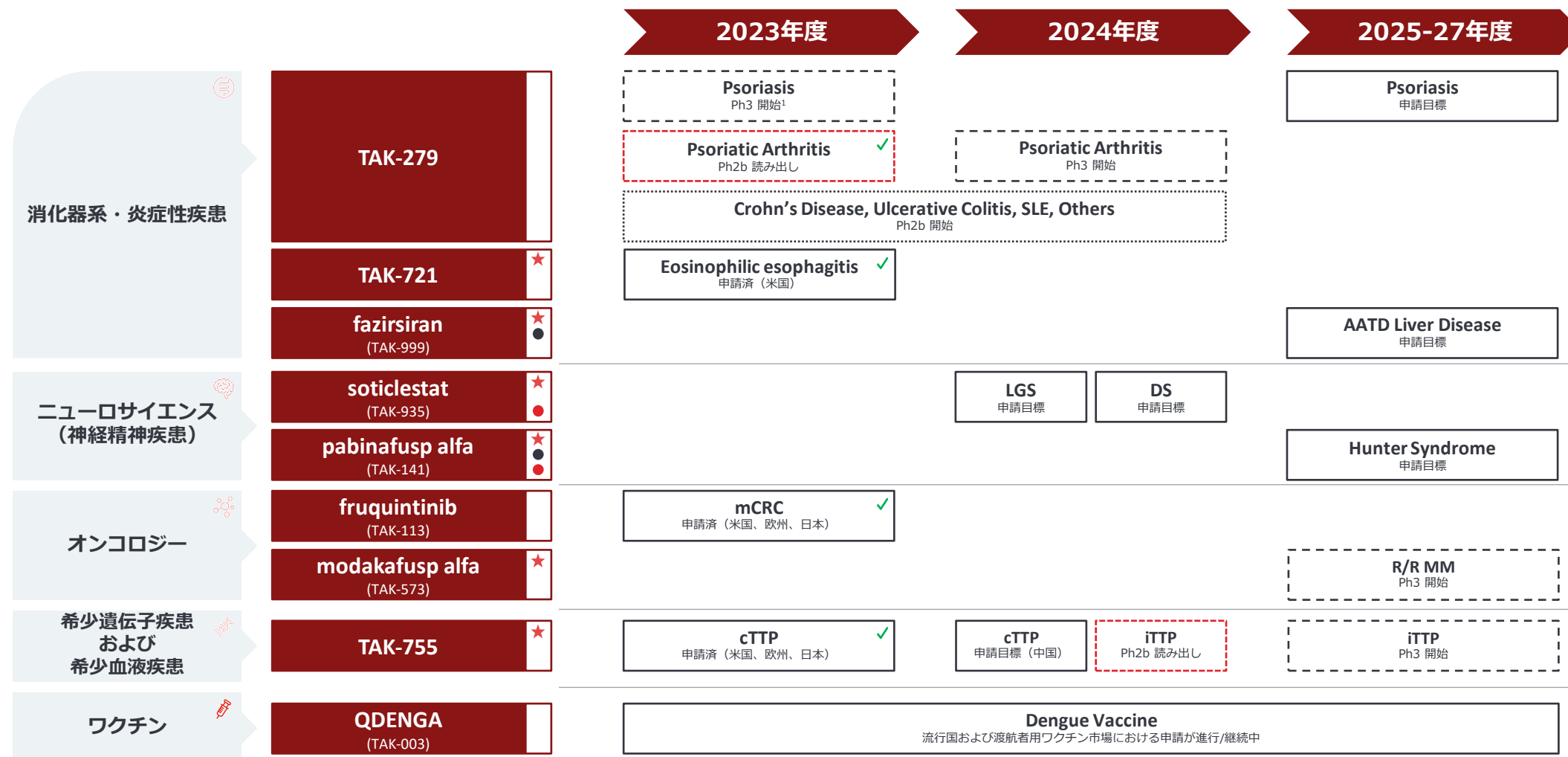


パイプライン	TAK-279	- 活動性乾癬性関節炎を対象とした臨床第2b相試験の良好な結果を、11月の米国リウマチ学会において発表予定 - 乾癬を対象とした臨床第3相試験は、2023年度中の開始を目標 - 乾癬性関節炎を対象とした臨床第3相試験は、2024年度早期の開始を目標
	オレキシン	TAK-861の健康成人における臨床第1相試験のデータを、ANHS¹および世界睡眠学会で発表
	TAK-721	好酸球性食道炎の治療薬としてTAK-721（ブデソニド経口懸濁液）を米国において再申請
成長製品・ 新製品	ENTYVIO SC	- 米国において米国食品医薬品局（FDA）が潰瘍性大腸炎を対象に承認 - 米国においてクローン病を対象に申請 - 日本において厚生労働省がクローン病を対象に承認（潰瘍性大腸炎は2023年3月に承認済）
	QDENG	世界保健機構（WHO）の諮問委員会が、デング熱の疾病負担が重く、感染率の高い地域において6歳から16歳を対象とした公的な予防接種プログラムに推奨
	ALOFISEL	臨床第3相ADMIRE CD- II 試験は主要評価項目を達成せず。安全性は過去の試験と一致
	EXKIVITY	全世界において自主的取り下げを開始予定。EGFRエクソン20挿入変異を伴う局所進行または転移性非小細胞肺癌に對する一次治療の検証試験において主要評価項目を達成せず
事業開発	AS-202/TAK-212	AcuraStem社との PIKFYVE²を標的とする治療薬の全世界での開発・商業化に関するライセンス契約 最初のプログラム：ALSを対象とする髄腔内投与のアンチセンス・オリゴヌクレオチド（ASO）であるAS-202
	Mirvetuximab soravtansine	ImmunoGen社との葉酸受容体α（FRα）高発現の卵巣がんを対象とした、日本における開発・商業化に関するライセンス契約。卵巣がん治療のために開発された初の抗体薬物複合体（ADC）

1. ANHS: Asian Narcolepsy & Hypersomnolence Society Meeting, 横浜（2023年9月）

2. PIKFYVE: phosphoinositide kinase, FYVE-type zinc finger containing

今後転換点を迎える有望な後期開発プログラム



- ★ 少なくとも1つの適応症において、希少疾病用医薬品（オーファンドラッグ）指定
- 少なくとも1つの適応症において、ブレイクスルーセラピー指定（米国）、PRIME指定（欧州）
- 少なくとも1つの適応症において、先駆け審査指定（日本）、ブレイクスルーセラピー指定（中国）

後期開発プログラム：ピボタル試験の段階またはブルーフ・オブ・コンセプトを達成プログラム

- ✓ マイルストーン達成
- 臨床第2相試験開始
- ブルーフ・オブ・コンセプト/用量設定
臨床第2相試験データ読み出し

- ピボタル試験開始目標
- 申請目標：承認申請の予想時期
- 承認

TAK-721：好酸球性食道炎（EoE）の初の経口治療薬となる可能性



好酸球性食道炎

- 食道における希少な炎症性疾患であり、成人および小児の患者さんで、しばしば嚥下障害を引き起こす
- 米国では約2,000人に1人がEoEに罹患¹
- 最近では治療法に進展は認められるものの、急性期のEoE治療として経口で局所に作用するステロイド剤に対してアンメット・ニーズが存在

TAK-721 再申請 (ブデソニド経口懸濁液)

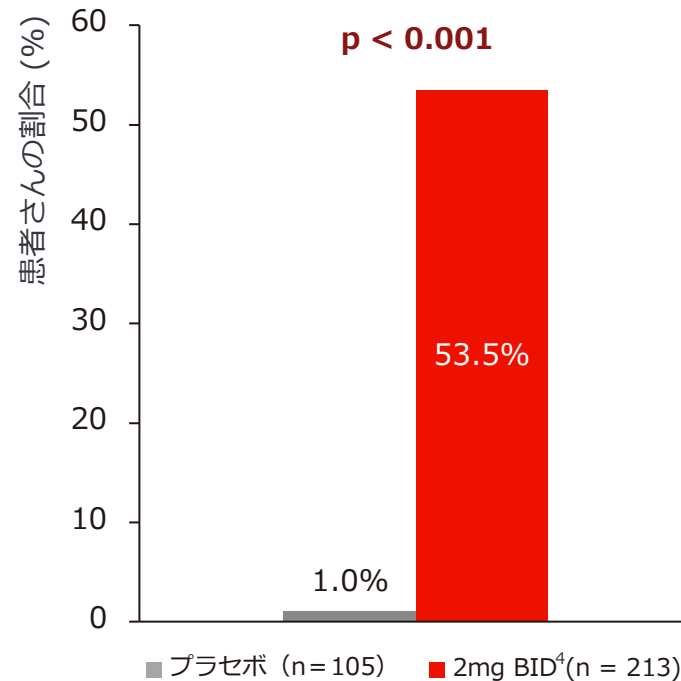
- EoE治療薬として、更新した承認申請をFDAに再提出
- 消化器およびEoE患者さん団体からTAK-721の再申請に対し多大な草の根レベルのサポートを得る
- EoE治療薬としての使用を支持する臨床データ²

ピボタル試験における複合主要評価項目²

12週時点の組織学的改善率

(生検組織の好酸球が強拡大視野あたりピークで6個以下)

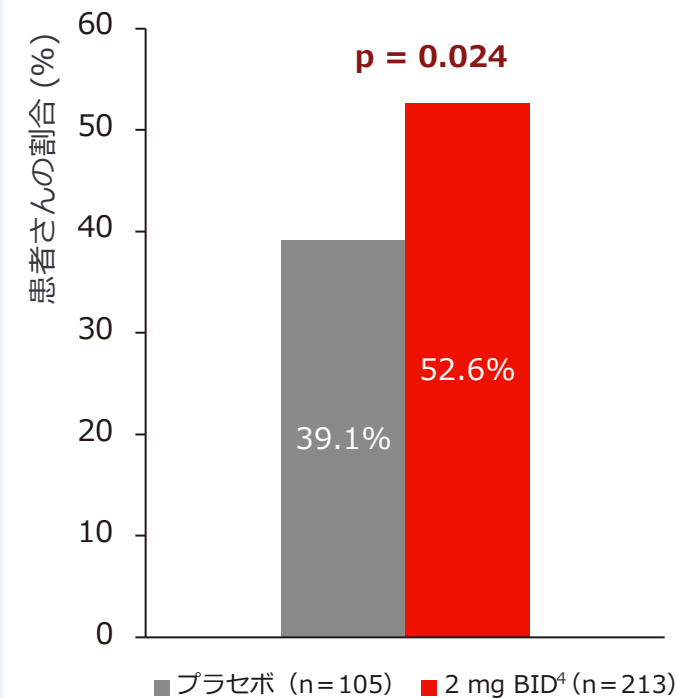
有意水準：p < 0.05



12週時点の症状改善率

(DSQスコア³の30%以上の低下)

有意水準：p < 0.05



1. Dellon ES, et al. Clin Gastroenterol Hepatol. 2014;12(4):589-596

2. Hirano I, et al. Clin Gastroenterol Hepatol. 2022;20:525-534

3. DSQ：嚥下障害症状質問票

4. BID：1日2回投与

中期開発パイプラインではデータに基づき意思決定



ブルーフ・オブ・コンセプト (POC) : POCの達成は、ピボタル試験または後期開発プログラムを開始するのに十分な臨床データが得られたことを意味する。臨床試験データの「読み出し」とは、以下のいずれかの場合を指す：

(1) 該当する臨床データの取得、(2) 取得した臨床データに対する必要な分析およびレビューの完了、(3) (要請される場合または通常の慣例や実務慣行に基づく場合) 取得したデータについて該当する規制当局との協議

読み出しが複数のPOC試験に関連する適応症クラス (例、固形がん) を指す場合は、以下のいずれか早い方のタイミング：

(1) 当該適応症クラス初めてのPOC達成、または (2) 当該適応症クラスにおける全てのPOC試験の結果を取得

- 主な早期段階のマイルストーン
- ブルーフ・オブ・コンセプトのデータ読み出し目標
- ★ 少なくとも1つの適応症において、希少疾病用医薬品 (オーファンドラッグ) 指定
- 少なくとも1つの適応症において、先駆け審査指定 (日本)、ブレイクスルーセラピー指定 (中国)
- ✓ マイルストーン達成

2023年度：新規候補物質および適応拡大による複数の承認取得の可能性



主な承認の可能性

ENTYVIO SC	潰瘍性大腸炎（UC） クローン病（CD）	米国 承認 日本 承認	✓ ✓
QDENG A	デング熱ワクチン	米国 承認 ¹ 流行国 ²	× ✓
TAK-755	先天性血栓性血小板減少性紫斑病（cTTP）	米国 承認	
fruquintinib	転移性大腸がん（mCRC）	米国 承認	
TAK-721	好酸球性食道炎（EoE）	米国 承認	
TAKHZYRO	小児の遺伝性血管性浮腫（HAE）	欧州 承認	
HYQVIA	慢性炎症性脱髄性多発根神経炎（CIDP）	米国 承認 欧州 承認	
HYQVIA	HyHub AVA ³ デバイス	米国クリアランス ⁴	→
HYQVIA	小児の原発性免疫不全症候群（PID）	米国 承認	✓
GAMMAGARD LIQUID	慢性炎症性脱髄性多発根神経炎（CIDP）	米国 承認	

主な臨床第3相試験/ ピボタル試験 読み出し

ALOFISEL	複雑痔瘻	臨床第3相試験（米国）	×
maralixibat	アラジール症候群（ALGS） 進行性家族性肝内胆汁うっ滞症（PFIC）	臨床第3相試験（日本） 臨床第3相試験（日本）	

1. 米国で承認申請を自主的に取り下げ。
2. 2023年4月にアルゼンチン、2023年5月にタイ、2023年9月にコロンビアにおいて承認済み。
3. HyHub：使い捨ての改良型無菌バイアルアクセス医療デバイスで、HYQVIAのバイアルから皮下組織への投与を簡便化。
4. 承認申請を取り下げ、再申請に向けた方向性を確認。

- ✓ マイルストーン達成
- マイルストーン遅延
- × マイルストーン未達成

臨床試験データの「読み出し」とは、以下のいずれかの場合を指す：

（1）該当する臨床データの取得、（2）取得した臨床データに対する必要な分析およびレビューの完了、（3）（要請される場合または通常の慣例や実務慣行に基づく場合）取得したデータについて該当する規制当局との協議

全てのタイムラインは2023年10月26日時点におけるおおよその予測で、変更される場合があります。また臨床試験・承認申請の結果に左右されます。表中の研究開発マイルストーンは包括的なものではありません。疾患名等の略語用語集は参考資料をご参照下さい。

AGENDA

Introduction

クリストフ・ウェバー

代表取締役社長 CEO

パイプラインアップデート

アンディー・プランプ

リサーチ&デベロップメント

プレジデント

財務報告

コスタ・サルウコス

チーフ フィナンシャル オフィサー



質疑応答

2023年度上期：マネジメントガイダンスに向けて着実な進捗 財務ベースの利益に非資金性の無形資産減損損失が影響



2023年度上期（4-9月）

トップライン

- ・ 売上収益 21,017億円（141億米ドル）¹ +1.4%成長（CER²ベース） 実勢レートベースで+6.4%成長
- ・ 成長製品・新製品+12.7 %成長（CERベース） 売上収益全体の42%を占める

利益・利益率

- ・ Core営業利益 5,888億円（39億米ドル）^{1, 3} Core営業利益率は28.0%
- ・ 財務ベース営業利益 1,192億円（8億米ドル）¹ 非資金性の無形資産減損損失を反映
- ・ Core EPS 261円 財務ベースEPS 27円は、アイルランド歳入庁との和解に伴う税金費用の減額によるプラス影響を含む

キャッシュ・フロー

- ・ 営業活動によるキャッシュ・フロー 2,913億円（19億米ドル）¹
- ・ フリー・キャッシュ・フロー △711億円⁴ TAK-279の取得およびfruquintinibの導入を含む支出2,555億円を反映
- ・ 負債削減を継続 第2四半期に満期を迎えた10億米ドルの社債を償還、負債残高の100%が加重平均で約2%の固定金利

2023年度通期見通し

- ・ 財務ベースの業績予想修正は、第2四半期に計上したノン・コアの項目に関する要因と為替前提の変更を反映
- ・ 通期マネジメントガイダンス（CERベースのCore増減率）および通期フリー・キャッシュ・フロー予想の4,000-5,000億円は変更なし

1. 為替レートに関する免責事項は2ページをご参照下さい。

2. Constant Exchange Rate：恒常為替レート。定義はA-1ページをご参照下さい。

3. Core財務指標の定義はA-1ページ、調整表はA-7、A-9ページをご参照下さい。

4. 定義はA-1ページ、調整表はA-11ページをご参照下さい。

成長製品・新製品が牽引し、上期売上収益+1.4%成長（CERベース）

財務ベースの営業利益と当期利益は第2四半期に大きなノン・コアの項目に関する要因の影響を受ける



2023年度上期（4-9月） 連結業績（サマリー）

(億円、EPSを除く)	財務ベース	
	2023年度 上期	実勢レートベース 増減率 (%)
売上収益	21,017	+6.4%
営業利益	1,192	△53.2%
営業利益率	5.7%	△7.2pp
当期利益	414	△75.2%
EPS	27円	△75.4%
営業活動による キャッシュ・フロー	2,913	△4.6%
フリー・キャッシュ・フロー ³	△711	N/A

CORE ¹		
2023年度 上期	実勢レートベース 増減率 (%)	CERベース ² 増減率 (%)
21,017	+6.4%	+1.4%
5,888	△5.8%	△9.5%
28.0%	△3.6pp	
4,077	△8.7%	△13.8%
261円	△9.4%	△14.4%

- フリー・キャッシュ・フローは、TAK-279の取得およびfruquintinibの導入を含む無形資産の取得による支出2,555億円を反映

1. Core財務指標の定義はA-1ページ、調整表はA-7、A-9ページをご参照下さい。
 2. Constant Exchange Rate：恒常為替レート。定義はA-1ページをご参照下さい。
 3. 定義はA-1ページ、調整表はA-11ページをご参照下さい。

成長製品・新製品の売上収益は+13%成長（CERベース） 売上収益全体の42%を占める



2023年度
上期
売上収益

	 消化器系疾患 対売上収益比：28% 対前年比：+3%	 希少疾患 対売上収益比：18% 対前年比：+2%	 血漿分画製剤 (PDT) 免疫疾患 対売上収益比：18% 対前年比：+17%	 オンコロジー 対売上収益比：11% 対前年比：△3%	 ニューロサイエンス (神経精神疾患) 対売上収益比：16% 対前年比：+3%	その他 対売上収益比：9% 対前年比：△23%
成長製品・ 新製品	 +6%  +24%	 +13%  +83%	   IMMUNOGLOBULIN +19%   ALBUMIN +11%	 +36%  +131%		 新製品
2023年度上期売上収益 計8,759億円（59億米ドル ¹ ）、昨年度比増分 1,431億円（10億米ドル ¹ ）						
その他 主要製品	Takecab/Vocinti® Gattex/Revestive®	Advate® Adynovate/Adynovi® Vonvendi® Elapraxe® Vpriv® Replagal® (欧州、日本)	Glassia® Aralast®	Ninlaro® Iclusig® Adcetris® (北米を除く) Leuporelin Zejula® (日本) Cabometyx® (日本) Vectibix® (日本)	Vyvanse® Trintellix® (米国、日本)	Azilva® (日本) Spikevax® (日本) Nuvaxovid® (日本)

全ての成長率は2023年度上期のCERベースの対前年比を小数点以下で四捨五入したものです。定義はA-1ページをご参照下さい。

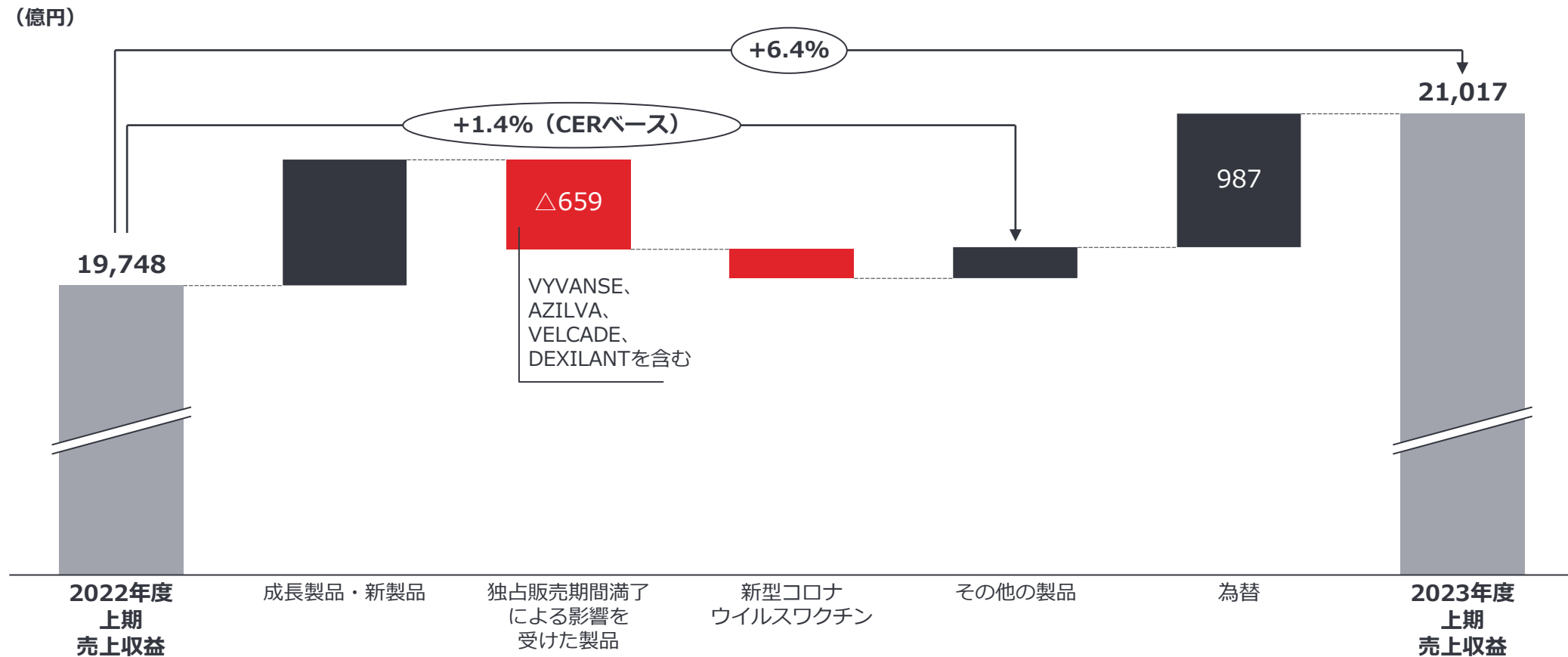
1. 為替レートに関する免責事項は2ページをご参照下さい。

2. 2023年10月2日、EXCLAIM-2検証試験の結果に基づき、当社は全世界でEXKIVITYの自主的な取り下げを開始予定であることを公表しました。

上期の売上収益は+1.4%成長：成長製品・新製品の拡大が、独占販売期間満了と新型コロナウイルスワクチンの減収による影響を上回る



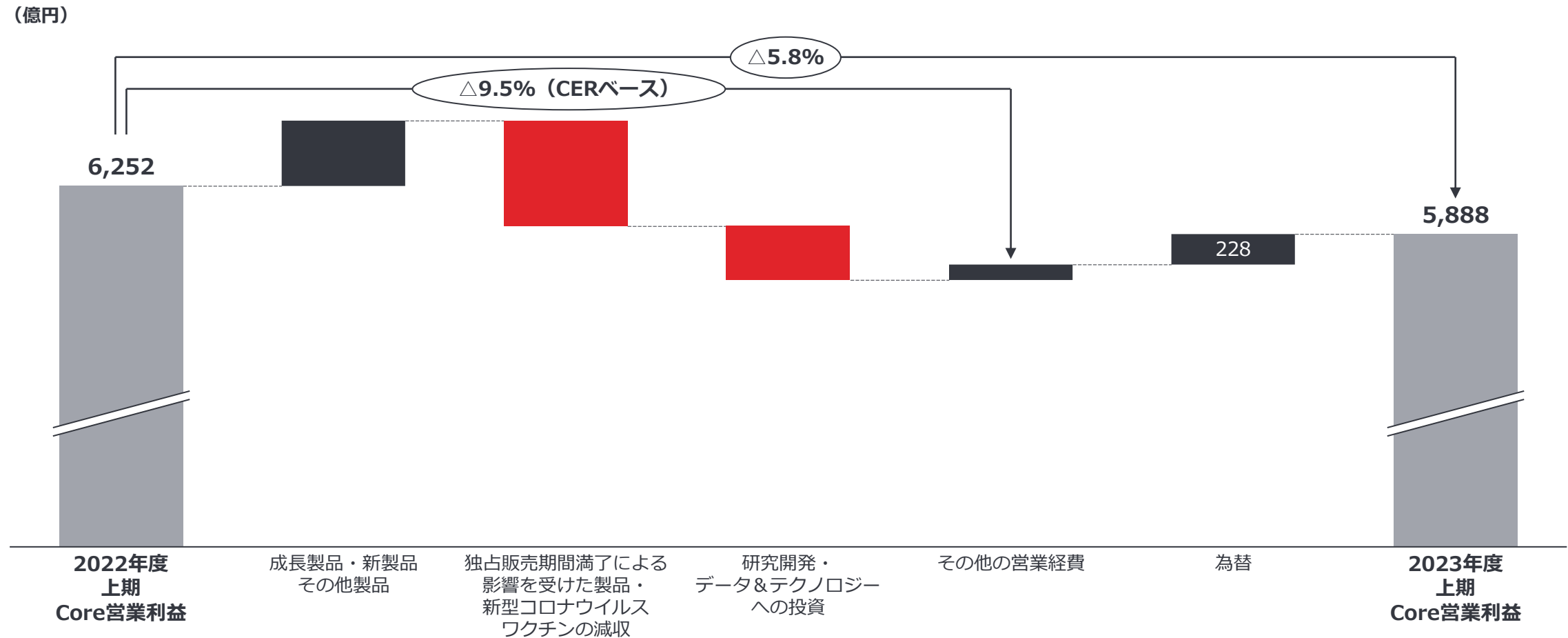
2023年度上期売上収益（対前年度）



Core営業利益は、利益率が高い製品の独占販売期間満了、新型コロナウイルスワクチンの減収
および研究開発とデータ&テクノロジーへの投資の増加が影響



2023年度上期 CORE営業利益（対前年度）

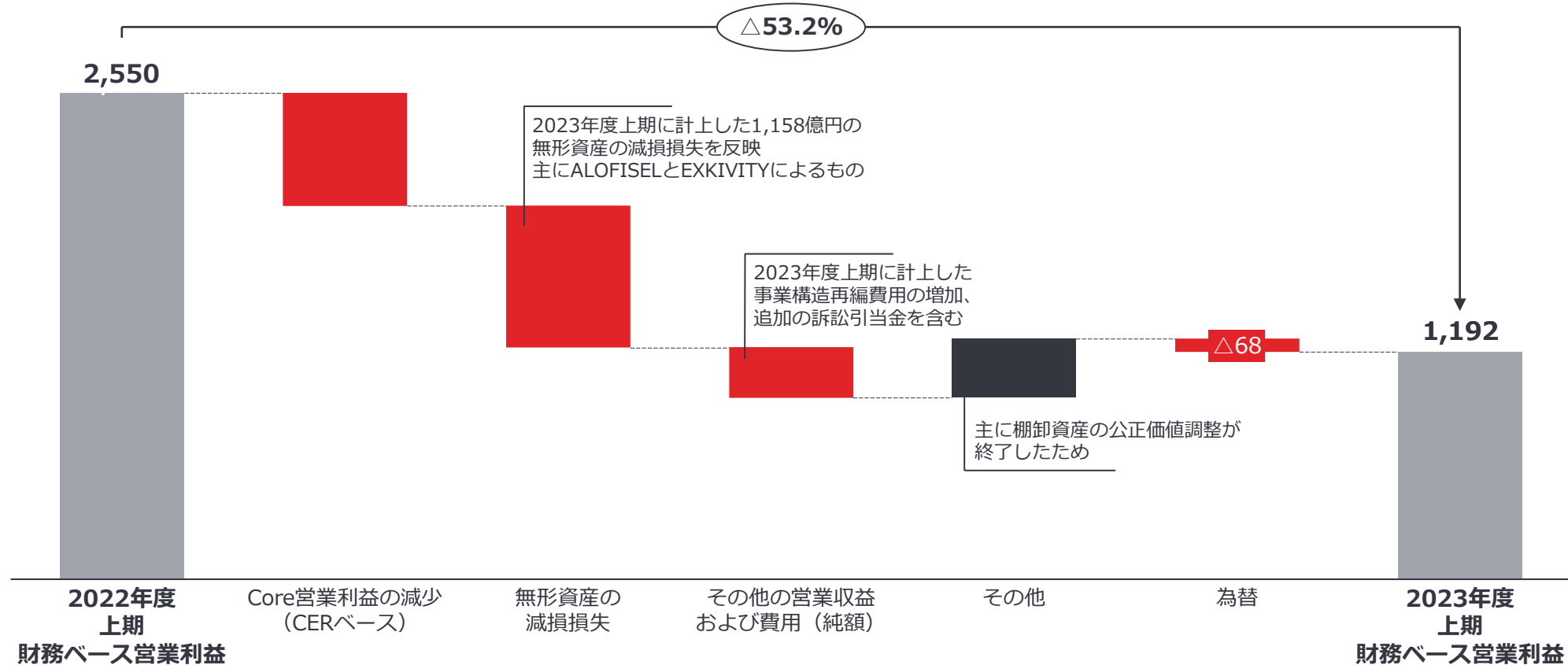


財務ベース営業利益には第2四半期に計上したノン・コアの項目に関する要因が大幅に影響



2023年度上期 財務ベース営業利益（対前年度）

（億円）



2023年度の通期予想は為替前提の変更と第2四半期に計上したノン・コアの項目に関する要因を反映 マネジメントガイダンスに変更なし



- ・ マネジメントガイダンスには独占販売期間満了による大幅なマイナス影響、新型コロナウイルスワクチンの減収、長期的な競争力を確保するための研究開発およびデータ&テクノロジーへの投資を反映
- ・ Core営業利益は1兆円超えの見通し

(億円、一株当たりの 数値を除く)	財務ベース			CORE			CORE増減率（CERベース）
	2023年度 前回予想 (2023年5月)	2023年度 今回予想 (2023年10月)	今回予想 対前年度	2023年度 前回予想 (2023年5月)	2023年度 今回予想 (2023年10月)	今回予想 対前年度	2023年度マネジメントガイダンス (2023年5月から変更なし)
売上収益	38,400	39,800	△1.2%	38,400	39,800	△1.2%	一桁台前半%の減少
営業利益	3,490	2,250	△54.1%	10,150	10,150	△14.6%	10%台前半の減少
EPS (円)	91円	59円	△70.9%	434円	447円	△19.9%	20%台前半の減少

フリー・キャッシュ・フロー	4,000 - 5,000
1株当たり年間配当金	188円

- ・ フリー・キャッシュ・フローの予想には、Nimbus社からのTAK-279の取得（1,341億円）¹ およびHutchmed社からのfruquintinibの導入（551億円）に関連する支出を反映

2023年度業績予想の主な前提：

- ・ 為替の前提は、137円/米ドル、145円/ユーロを想定。為替感応度については、A-19ページをご参照下さい。

本スライドには国際会計基準に準拠しない財務指標が含まれます。定義および調整表は参考資料をご参照下さい。

2023年度の業績予想の詳細はA-17ページをご参照下さい。

1. TAK-279の取得に関連し、2023年度の支払った一時金40億米ドルの一部を指します。

2023年度上期：マネジメントガイダンスに向けて着実な進捗 財務ベースの利益に非資金性の無形資産減損損失が影響



2023年度上期（4-9月）

トップライン

- ・ 売上収益 21,017億円（141億米ドル）¹ +1.4%成長（CER²ベース） 実勢レートベースで+6.4%成長
- ・ 成長製品・新製品+12.7 %成長（CERベース） 売上収益全体の42%を占める

利益・利益率

- ・ Core営業利益 5,888億円（39億米ドル）^{1, 3} Core営業利益率は28.0%
- ・ 財務ベース営業利益 1,192億円（8億米ドル）¹ 非資金性の無形資産減損損失を反映
- ・ Core EPS 261円 財務ベースEPS 27円は、アイルランド歳入庁との和解に伴う税金費用の減額によるプラス影響を含む

キャッシュ・フロー

- ・ 営業活動によるキャッシュ・フロー 2,913億円（19億米ドル）¹
- ・ フリー・キャッシュ・フロー △711億円⁴ TAK-279の取得およびfruquintinibの導入を含む支出2,555億円を反映
- ・ 負債削減を継続 第2四半期に満期を迎えた10億米ドルの社債を償還、負債残高の100%が加重平均で約2%の固定金利

2023年度通期見通し

- ・ 財務ベースの業績予想修正は、第2四半期に計上したノン・コアの項目に関する要因と為替前提の変更を反映
- ・ 通期マネジメントガイダンス（CERベースのCore増減率）および通期フリー・キャッシュ・フロー予想の4,000-5,000億円は変更なし

1. 為替レートに関する免責事項は2ページをご参照下さい。

2. Constant Exchange Rate：恒常為替レート。定義はA-1ページをご参照下さい。

3. Core財務指標の定義はA-1ページ、調整表はA-7、A-9ページをご参照下さい。

4. 定義はA-1ページ、調整表はA-11ページをご参照下さい。

血漿分画製剤 投資家向けコール

2023年12月6日（水） 午前8:00（日本時間）
2023年12月5日（火） 午後6:00（米国東部時間）

2023年度第3四半期決算発表 カンファレンスコール

2024年2月1日（木）
（詳細は後日連絡）

質疑応答



クリストフ・ウェバー

代表取締役社長 CEO



アンディー・プランプ

リサーチ&デベロップメント
プレジデント



コスタ・サルウコス

チーフ フィナンシャル
オフィサー



ラモナ・セケイラ

グローバルポートフォリオ ディビジョン
プレジデント



ジュリー・キム

U.S. ビジネスユニット
プレジデント



古田未来乃

ジャパン ファーマ ビジネス
ユニット プレジデント

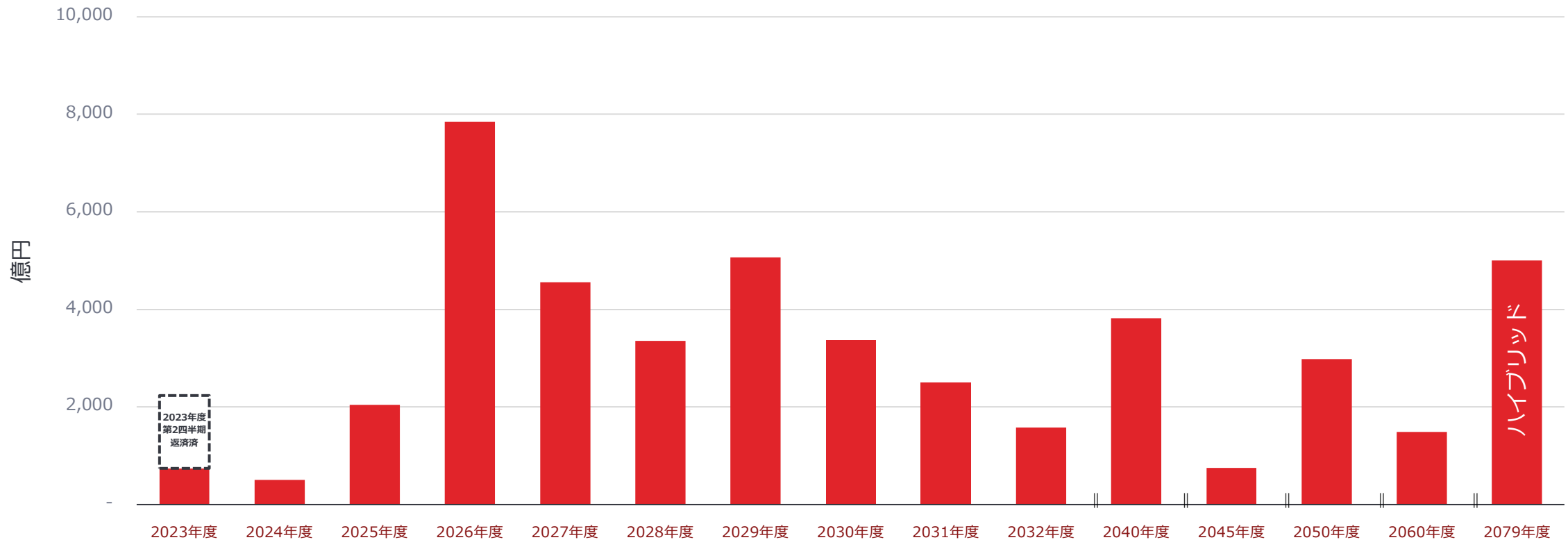
APPENDIX



第2四半期に満期を迎えた10億米ドルの社債を償還し、負債削減を継続 負債残高の100%が加重平均で約2%の固定金利



2023年9月30日時点のマチュリティラダー



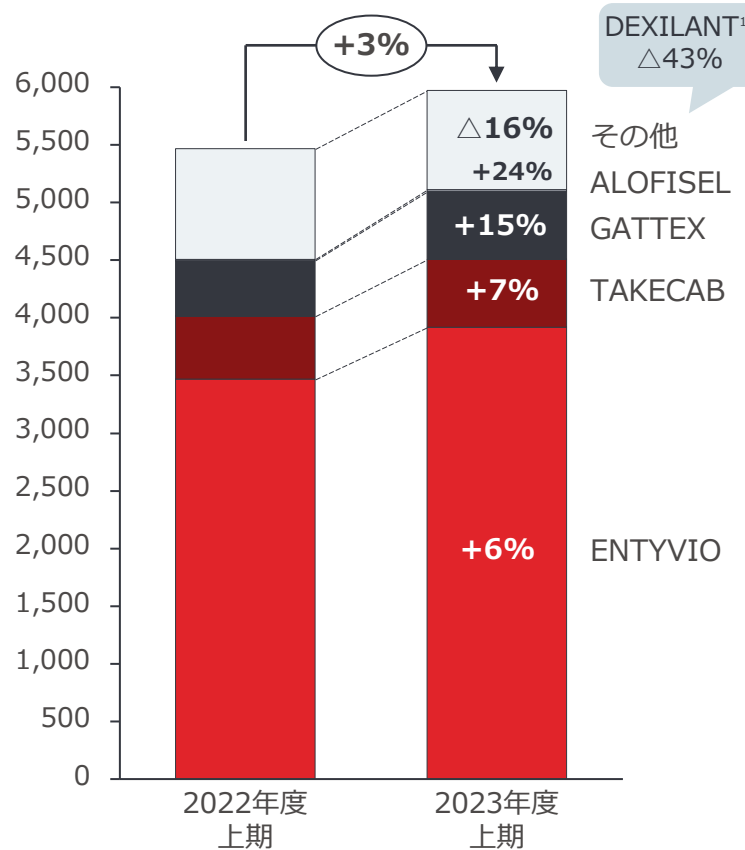


DEXILANTの独占販売期間満了によるマイナス影響を受けたものの ENTYVIOの成長が引き続き消化器系疾患フランチイズの拡大を牽引

消化器系疾患 ポートフォリオ

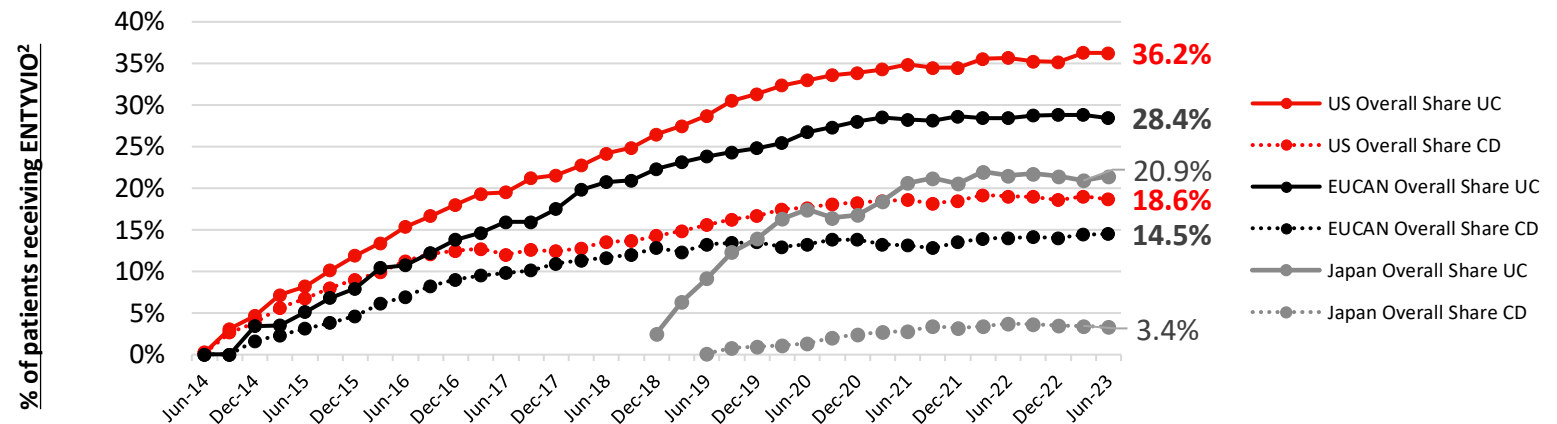
2023年度上期 売上収益

(億円)



2023年度上期売上収益 3,917億円 (+5.8%成長)

- 2023年度上期の売上収益は、1桁台の市場成長、前年の米国における出荷時期による影響、世界的な競争激化、EUCANにおける価格引き下げの影響を受け、+5.8%の成長
 - Entyvioは、米国における炎症性腸疾患の市場全体および生物学的製剤ナイーブの患者さんへ新規に処方された治療薬の両方で第1位を維持
 - EUCANでは、Entyvioの処方量は堅調な伸びを維持、投与患者数は約15%増加し、炎症性腸疾患における先進的治療薬の市場全体の伸びを上回る



2023年度上期売上収益 589億円 (+15.5%成長)

- 早期診断、治療継続性の向上、幅広い情報活動が力強い成長を牽引
乳幼児への適応拡大、日本を含む地理的拡大も貢献

EUCAN : 欧州・カナダ

1. 2023年1月より米国市場において後発品の参入が開始。

2. 米国 : SHA Medical and Pharmacy Claims data ; EUCAN : 社内推定 ; 日本 : JMDC

EUCANにおける市場シェアは前四半期までの算出値から変更し、より正確に潰瘍性大腸炎とクローン病の患者割合を反映。

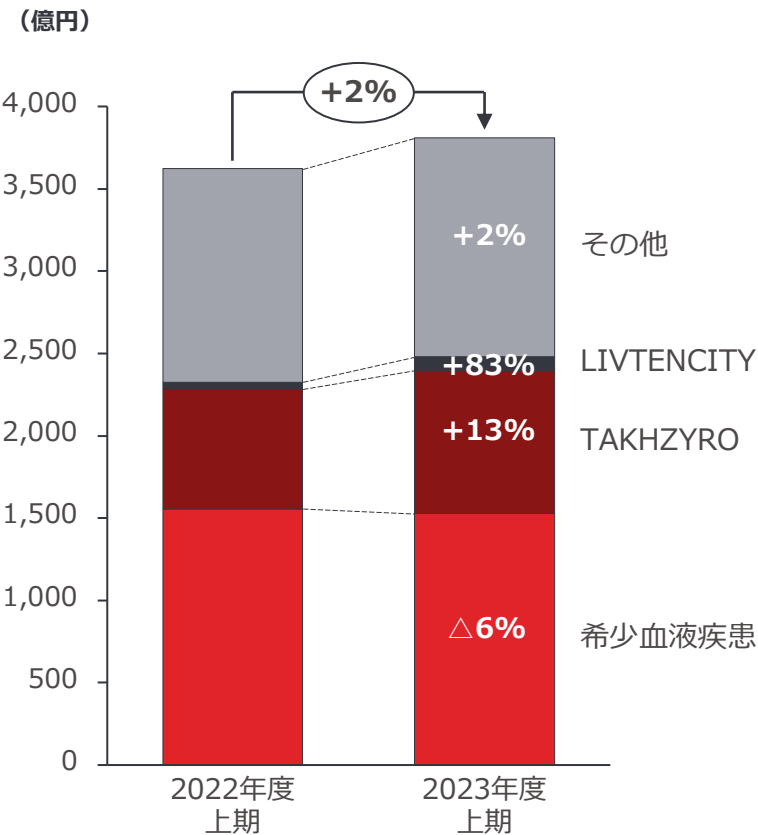


TAKHZYROは新規患者層の獲得で力強い成長が継続 LIVTENCITYは米国での順調な市場浸透と急速な地理的拡大



希少疾患ポートフォリオ

2023年度上期 売上収益



2023年度上期売上収益 871億円 (+13.1%成長)

- TAKHZYROは、50カ国以上での上市に成功し、診断および予防市場の成長に後押しされた新規患者層における使用拡大により、好調な勢いを維持
- TAKHZYROは、2歳以上の小児患者さんにおける遺伝性血管性浮腫（HAE）の再発性発作の予防として承認を推奨する欧州医薬品委員会（CHMP）の肯定的な見解を受領。欧州委員会の承認は2023年11月を想定承認された場合、6歳未満の患者さんにおける長期的な予防を対象とした欧州で初のHAE治療薬となる
- HELP試験およびHELP-OLE試験の結果と同様に、EMPOWER試験およびENABLE試験において、2年以上にわたる発作の減少、一貫した安全性、QOLの改善が確認され、強固な実臨床エビデンスを構築



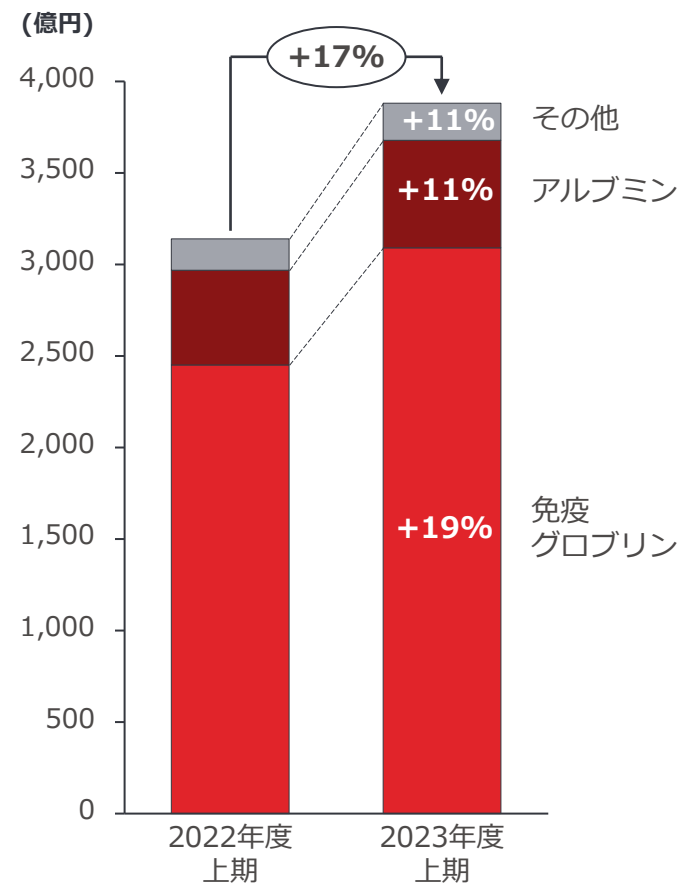
2023年度上期売上収益 83億円 (+83.2% 成長)

- LIVTENCITYは、力強い立ち上がりが継続。急速な使用拡大、新規投与症例の増加や新規処方医と再処方医の増加に繋がる各移植センターにおける浸透（全診療科への処方の拡大）、および高いアンメットニーズを示す良好な市場アクセスの傾向が牽引
- 実臨床の医師の判断による使用期間は非常に個別化されていることが明らかになっており、SOLSTICE試験で評価された8週間よりも長く治療を受けている患者さんも確認されている。移植後難治性サイトメガロウイルス（CMV）感染症に対する使用パターンや難治性の定義が不均一であることから対象患者さんがより幅広くなる可能性
- オーストラリア、韓国、台湾、ブラジルで承認を取得し、米国と欧州以外での急速な地理的拡大が継続
LIVTENCITYは、欧州19カ国において上市済みであり、国家保険償還あるいはIndividual Funding Request制度を含む部分償還の対象となる

血漿分画製剤ポートフォリオは引き続き卓越した成長を実現

血漿分画製剤（免疫疾患）ポートフォリオ

2023年度上期 売上収益



免疫グロブリン製剤

2023年度上期売上収益 3,092億円（+19.0%成長）

- 米国を筆頭に世界的に強い需要が継続し、供給も安定的に増加
- 皮下投与製剤のポートフォリオは継続的に拡大し、二桁台の成長率。CUVITRUが当社として国内初の皮下投与の免疫グロブリン治療製剤として承認

GAMMAGARD Liquid
[Immune Globulin Intravenous (Human)] 10%

Kiovig
Human Normal Immunglobulin (IVIg)

HyQvia
Human Normal Immunglobulin (20%)
Recombinant Human Hyaluronidase

Cuvitru
[Immune Globulin Subcutaneous (Human)] 20%

アルブミン製剤

2023年度上期売上収益 589億円（+10.9%成長）

- 昨年に引き続き堅調に成長、特に中国においてアルブミン製剤に対し高い需要

Flexbumin
(Human Albumin)

HUMANALBUMIN
SOLUTION FOR INFUSION

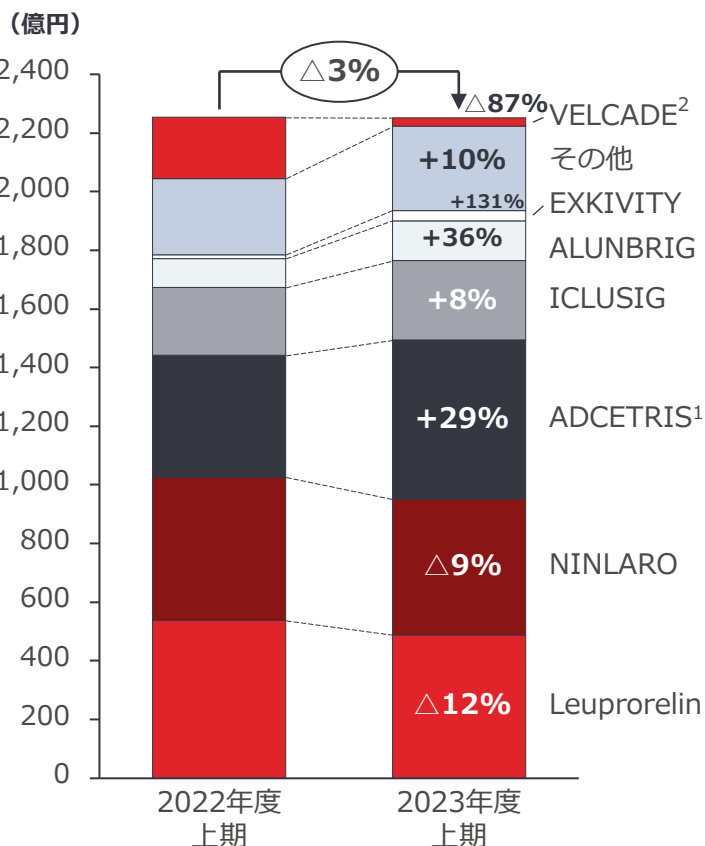
血漿収集とグリーンセンターへの投資を継続

- 2023年度の血漿収集量+10-20%増加目標に向けて想定通りに進捗
- 当社の血漿収集拠点は、現在グローバルで243センター
2023年度末までに20センター以上を新規開設する計画に対して想定通りに進捗
- 10月4日にBioLifeの施設初となる二酸化炭素冷媒技術を活用した温室効果ガス排出ゼロの血漿収集センターが、オーストリアのリンツで開設
- データ、デジタル、テクノロジーを駆使し、製造ネットワーク全体でターゲットを絞った投資を行い、血漿からの成分収集量の改善や製造能力の拡大および効率化を図る

オンコロジー領域の成長率はVELCADEの後発品参入が影響 VELCADEを除くポートフォリオは+6%成長（CERベース）

オンコロジーポートフォリオ

2023年度上期 売上収益



- 局所進行または転移性のEGFRエクソン20挿入変異を有する非小細胞肺癌における一次治療の検証試験は主要評価項目を満たさなかった
当社は全世界で自主的な取り下げを開始予定



- 欧州・カナダ、日本および成長新興国市場において、ホジキンリンパ腫の一次治療で力強い成長を継続。ホジキンリンパ腫の一次治療における使用拡大は、ECHELON-1試験の6年間の全生存期間（OS）データに基づく
- 欧州委員会は、ホジキンリンパ腫の一次治療において、ステージⅣのみからステージⅢおよびⅣへ適応症の拡大を承認



- 2023年度第2四半期は2桁成長を達成
米国における売上収益の増加、欧州・カナダおよび日本における継続的な成長が牽引

絶対値は国際会計基準（IFRS）財務ベース、
対前年比はCERベース（定義はA-1ページをご参照下さい）。
疾患名等の略語用語集は参考資料をご参照下さい。

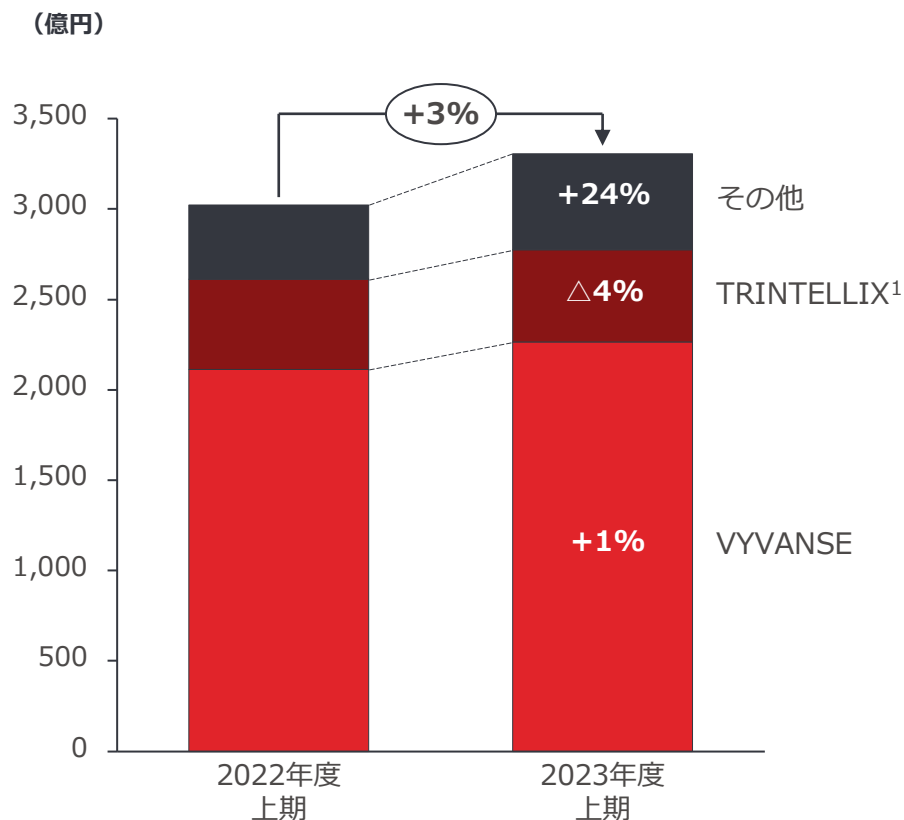
1. ADCETRISはSeagen社より導入；北米外でのグローバル共同開発・販売権を保有。
2. 2022年5月より米国市場において後発品の参入開始。

VYVANSEの米国における独占販売期間満了による影響は、想定通り8月から開始



ニューロサイエンスポートフォリオ

2023年度上期 売上収益



2023年度上期売上収益 2,263億円 (+0.7%成長)

- 成人の注意欠陥／多動性障害（ADHD）人口の拡大および他のADHD治療薬の後発品の供給不足により、独占販売期間満了前の4月～8月は力強い業績
- 最新の市場情報によると、8月24日の独占販売期間満了以降、8つの後発品が上市されている
- 2023年度通期の見込みでは、米国で後発品による急速なシェアの低下を想定
現時点では後発品の影響は想定通り
- 2023年4月の日本における販売権の買い戻しを含め、米国以外で成長が継続



2023年度上期売上収益 510億円 (△3.5%減少)

- 対前年の減収は、主に公的医療保険を介した処方の増加と価格によるもの
また、新規患者さんは複合的な要因で減少し、全体的な需要が低下している
- 米国において、処理速度（大うつ病で障害される可能性がある認知機能）を含むTRINTELLIXの有効性ストーリーに焦点をあてた戦略とともに、販売部門の活動とオムニチャネル型の情報活動が新規患者さんに対する処方増加を牽引すると想定
- 米国での小児に対するデータにより、独占販売期間は2026年12月まで延長される見込み
- 日本では、2023年度上期で+35.6%の成長となり、力強い勢いが継続
精神科医の間で初回治療に選択される治療薬として確かなポジショニングが確立されつつあり、薬効市場内のTRINTELLIXのシェアは引き続き上昇

1. TRINTELLIXはLundbeck社より導入；米国と日本で共同販売権を保有。

短期的に展開される重要なライフ・サイクル・マネジメントの拡大がもたらす大きな成長機会



	2023年度	2024年度
消化器系・炎症性疾患	ENTYVIO 申請済 皮下投与製剤 CD (米国) ✓ ALOFISEL 申請目標 複雑痔瘻 (米国) ¹	maralixibat 申請目標 ALGS、PFIC (日本)
オンコロジー	ICLUSIG 申請目標 1L Ph+ ALL (米国) CABOMETYX 申請目標 CRPC (日本)	
希少遺伝子疾患 および 希少血液疾患	LIVTENCITY 申請目標 R/R CMV (日本) ²	
血漿分画製剤	HYQVIA 申請目標 PID (日本) TAK-880 申請目標 RTU IgG低IgA (欧州) GAMMAGARD LIQUID 申請済 CIDP (米国) ✓	HYQVIA 申請目標 CIDP、MMN (日本)

1. 米国申請を想定して実施したALOFISELの臨床第3相ADMIRE-CD II 試験は主要評価項目を達成せず
2. 移植後サイトメガロウイルス (CMV) 感染/感染症

承認済

申請目標

✓ マイルストーン達成

ENTYVIO：継続的なエビデンス構築および適応拡大



	臨床第3相試験	論文掲載/学会発表	申請済	承認済
潰瘍性大腸炎	ENTYVIO® 静注製剤、小児適応（グローバル）	ENTYVIO® 静注製剤、adalimumabとの直接比較試験 (VARITY) ¹		ENTYVIO® 静注製剤（グローバル） ENTYVIO® 皮下投与製剤（米国、欧州、日本）
クローン病	ENTYVIO® 静注製剤、小児適応（グローバル）		ENTYVIO® 皮下投与製剤（米国）	ENTYVIO® 静注製剤（グローバル） ENTYVIO® 皮下投与製剤（欧州、日本）
回腸囊炎				ENTYVIO® 静注製剤（欧州）
移植片対宿主病		ENTYVIO® 静注製剤（グローバル） ² ★		
実臨床エビデンス	追加の臨床試験を計画中			

1. Sands BE et al. N Engl J Med 2019;381:1215-26.
2. Chen YB et al., Transplantation & Cellular Therapy Meetings of ASTCT and CIBMTRにおいて発表（2023年2月18日）

承認済
 論文掲載/学会発表
 継続中の試験または申請済

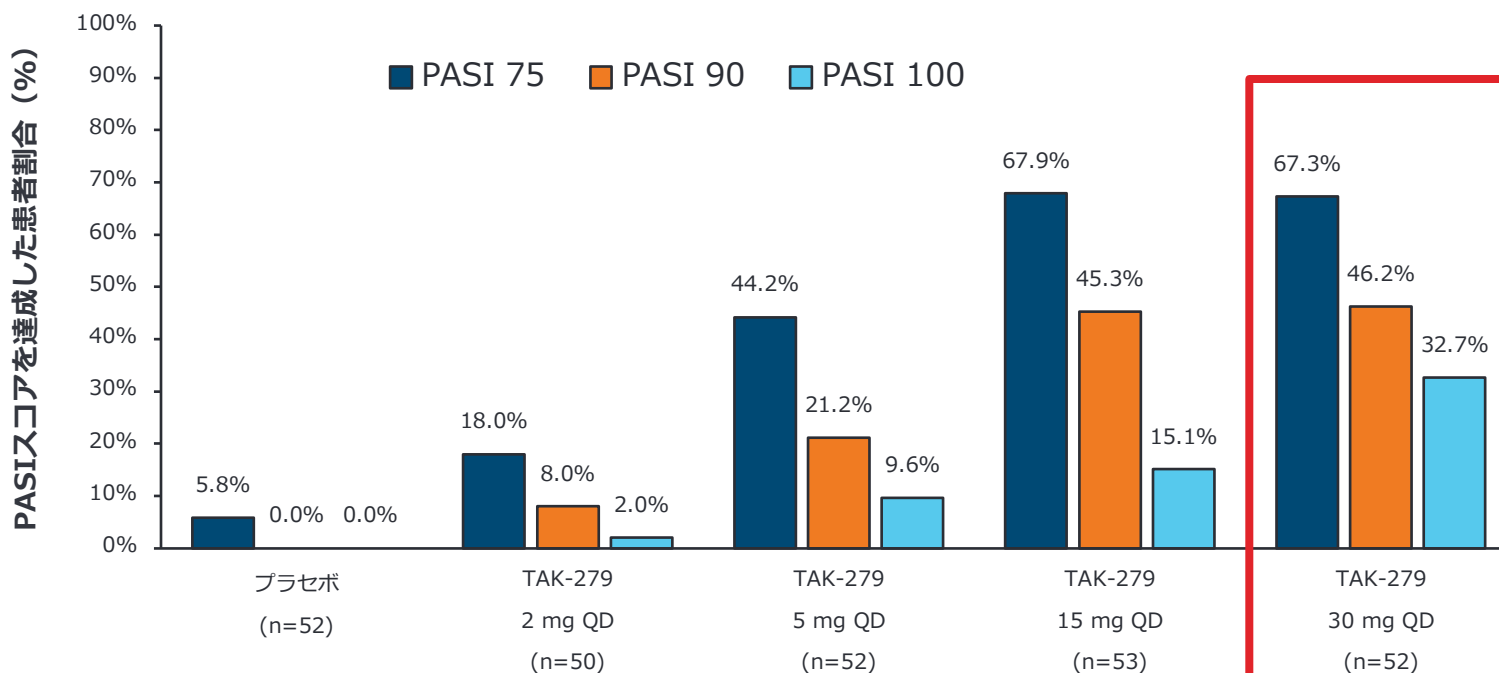
★ 希少疾病用医薬品（オーファンドラグ）指定の可能性



TAK-279：臨床第2b相試験の成績は、 乾癬治療の経口剤としてベストインクラスの可能性を示唆



12週時点においてPASI 75、90または100を達成した患者割合¹



まとめ

- 優れた有効性：30mg投与群の33%の患者さんが12週時点で皮膚病変の完全な消失（PASI 100）を達成
- 試験治療下で発現した有害事象はおおむね低頻度
 - 最も頻度高く発現：COVID-19、ざ瘡、ざ瘡様皮膚炎および下痢
- JAKキナーゼよりもTYK2に対して高い選択性
 - 約150万倍
 - 忍容性に優れ、1日1回経口投与

2028年の市場規模の推定²

- 乾癬 300億米ドル
- 炎症性腸疾患 300億米ドル
- 乾癬性関節炎 70億米ドル

2023年度

乾癬 – 2つの臨床第3相試験 開始³

乾癬性関節炎 – 臨床第2b相試験 データ読み出し

2024年度

乾癬性関節炎 – 臨床第3相試験 開始

乾癬 直接比較 – 臨床第3相試験 開始

クローン病 – 臨床第2b相試験 開始

潰瘍性大腸炎 – 臨床第2b相試験 開始

全身性エリテマトーデス – 臨床第2相試験 開始

その他の適応症 – 臨床第2相試験 開始

2025-27年度

乾癬
申請目標

今後のステップ

臨床開発パイプライン一覧表（フェーズ別）



臨床第1相試験（新規候補物質12品目+LCM1件）

臨床第2相試験（新規候補物質18品目+LCM 1件）

消化器系・炎症性疾患

ニューロサイエンス
（神経精神疾患）

オンコロジー
+ 細胞療法

希少遺伝子疾患
および
希少血液疾患

血漿分画製剤

ワクチン

TAK-647
NASH

TAK-012
Acute myeloid
leukemia

TAK-102
Solid tumors

TAK-103
Solid tumors

TAK-186
EGFR Solid Tumor³

modakafusp alfa[★]
Solid tumors

TAK-940
CD19+ hematologic
malignancies

TAK-500
Solid tumors

TAK-280
B7-H3 Solid Tumor³

ICLUSIG[®]
Pediatric Ph+ ALL

TAK-755[★]
SCD

mezagitamab[★]
IgAN

TAK-426
Zika Vaccine

TAK-279
Psoriasis

TAK-101
Celiac Disease

TAK-951
Nausea & vomiting

TAK-279
Psoriatic Arthritis

TAK-227
Celiac Disease

zamaglutinase¹
Celiac Disease

TAK-861[★]
NT1

TAK-041
Anhedonia in MDD

TAK-653
Inadequate resp.
in MDD

TAK-071
Parkinson's Disease

TAK-861[★]
NT2

danavorexton^{2★}
Postanesthesia
recovery

TAK-341[★]
MSA

TAK-594[★]
Frontotemporal
dementia

modakafusp alfa[★]
R/R MM

subasumstat
Multiple cancers

TAK-007[★]
CD19+ hematologic
malignancies

dazostinag
TAK-676⁴
Solid tumors⁴

mezagitamab[★]
MG

mezagitamab[★]
ITP

TAK-755[★]
ITTP

TAK-881
Immunodeficiencies

1. Zamaglutinase はTAK-062の国際一般名。
2. DanavorextonはTAK-925の国際一般名。
3. 現在、臨床第1/2相試験の第1相パート。
4. 現在、臨床第1/2相試験の第2相パート。

★ 希少疾病用医薬品（オーファンドラッグ）の指定の可能性（いずれかの地域 / 適応症）

新規候補物質

LCM

臨床開発パイプライン一覧表（フェーズ別）



消化器系・炎症性疾患

ニューロサイエンス (神経精神疾患)

オンコロジー + 細胞療法

希少遺伝子疾患 および 希少血液疾患

血漿分画製剤

ワクチン

臨床第3相試験（新規候補物質5品目+LCM21件）

fazirsiran AATD Liver Disease ★	ENTYVIO® Pediatric UC	ALOFISEL® Perianal Fistulas in CD (US)★	maralixibat ALGS (JP) ★
ENTYVIO® GvHD Prophylaxis ★	ENTYVIO® Pediatric CD	ALOFISEL® Pediatric perianal Fistulas in CD ★	maralixibat PFIC (JP) ★
soticlestat DS ★	soticlestat LGS ★	pabinafusp alfa Hunter Syndrome ★	
CABOMETYX® mCRPC combo w/atezolizumab (JP)	ICLUSIG® 1L Ph+ ALL (US)		
NINLARO® Maint. ND MM post-SCT (US, EU) ★	relugolix Prostate cancer (JP, CN)		
TAK-755 cTTP (CN) ★	LIVTENCITY® Post-transplant CMV infection (JP) ★	ADYNOVATE® recombinant Factor VIII HemA (CN)	
VONVENDI® vWD Adult Prophylaxis (CN) ★	VONVENDI® vWD Pediatric On-demand & Surgery ★	ADYNOVATE® recombinant Factor VIII Pediatric HemA (EU)	
HYQVIA® CIDP, MMN (JP) ★	HYQVIA® PID (JP)	Prothromplex DOAC Reversal (US)	
TAK-880 IgG – Low IgA (US, EU)	Glovenin-I Autoimmune Encephalitis (JP) ★		
QDENGAR® Dengue Vaccine Booster			

申請（新規候補物質3品目+LCM18件）

ENTYVIO® SC UC (US)	VOCINTI® H. Pylori (CN)	TAK-721 Eosinophilic esophagitis (US) ★
ENTYVIO® SC CD (JP)	ENTYVIO® SC CD (US)	
fruquintinib mCRC (US)	fruquintinib mCRC (JP)	ADCETRIS® FL HL Stage III (EU) ★
fruquintinib mCRC (EU)	ADCETRIS® FL PTCL-NOS (EU) ★	ADCETRIS® R/R CTCL (JP) ★
TAK-755 cTTP (US) ★	TAK-755 cTTP (JP) ★	OBIZUR® Recomb antihemophilic factor porcine (JP) ★
TAK-755 cTTP (EU) ★	TAKHZYRO® Pediatric HAE (EU) ★	OBIZUR® Recomb antihemophilic factor porcine (CN) ★
		VONVENDI® vWD On-demand & Surgery (CN) ★
HYQVIA® CIDP (US) ★	HYQVIA® Pediatric PID (US) ★	CUVITRU® PID, SID (JP)
HYQVIA® CIDP (EU) ★	GAMMAGARD LIQUID® CIDP (US)	CEPROTIN® SCPCD (JP)

1. ALOFISEL の試験は主要評価項目を達成せず。さらなる解析を継続中。

★ 希少疾病用医薬品（オーファンドラッグ）の指定の可能性（いずれかの地域 / 適応症）

承認済

新規候補物質

LCM

全てのタイムラインは2023年10月26日時点におけるおおよその予測で、変更される場合があります。また臨床試験・承認申請の結果に左右されます。表中の研究開発マイルストーンは包括的なものではありません。
疾患名等の略語用語集は参考資料をご参照下さい。

2023年度における臨床開発パイプラインにおける変更点



臨床第1相試験（追加品目）	臨床第2相試験（追加品目）	臨床第3相試験（追加品目）	新規申請
TAK-012 Acute myeloid leukemia TAK-647 NASH	danavorexton Postanesthesia recovery dazostinag TAK-676 Solid tumors¹	ADYNOVATE® recombinant Factor VIII HemA (CN)	TAK-721★ Eosinophilic esophagitis (US) fruquintinib mCRC (EU, JP) TAK-755★ cTTP (US, EU, JP) CEPROTIN® SCPCD (JP) ENTYVIO® SC CD (US) ADCETRIS®★ FL PTCL-NOS (EU) OBIZUR®★ Recomb antihemophilic factor porcine (JP) GAMMAGARD LIQUID® CIDP (US)
臨床第1相試験（中止品目）	臨床第2相試験（中止品目）	臨床第3相試験（中止品目）	新規承認
TAK-105 Nausea & vomiting TAK-920 Alzheimer's Disease	TAK-611 MLD (intrathecal)	EXKIVITY® 1L NSCLC EGFR exon 20 ZEJULA® Breast cancer (JP) Nuvaxovid® COVID-19 Vaccine Booster (JP)²	ENTYVIO® SC UC (US) ADCETRIS® FL HL Stage III (EU) CUVITRU® PID, SID (JP) ENTYVIO® SC CD (JP) HYQVIA®★ Pediatric PID (US)

- 現在、臨床第1/2相試験の第2相パート。
- Nuvaxovidの追加接種を評価する臨床第3相試験は完了。

★ 希少疾病用医薬品（オーファンドラッグ）の指定の可能性（いずれかの地域/適応症）

承認済

新規候補物質

LCM

全てのタイムラインは2023年10月26日時点におけるおおよその予測で、変更される場合があります、また臨床試験・承認申請の結果に左右されます。表中の研究開発マイルストーンは包括的なものではなく、主要な市場（米国、欧州、日本、中国）の情報を掲載しています。疾患名等の略語用語集は参考資料をご参照下さい。

略語の用語集



地域に関する略語:
CN: 中国; EU: 欧州; JP: 日本; UK: 英国; US: 米国

AAD	American Academy of Dermatology（米国皮膚科学会）
AATD	α 1-antitrypsin deficiency（ α 1アンチトリブシン欠乏症）
AATD LD	α 1-antitrypsin deficiency associated liver disease （ α -1アンチトリブシン欠乏症による肝疾患）
ACR	American College of Rheumatology（米国リウマチ学会）
ADAMTS13	a disintegrin-like and metalloproteinase with a thrombospondin type 1 motifs 13 （トロンボスポンジン1型モチーフ13を有するディスインテグリンおよびメタロプロテイナーゼ）
ADHD	attention deficit hyperactivity disorder （注意欠陥多動性障害）
ALGS	Alagille syndrome（アラジール症候群）
ALK	anaplastic lymphoma kinase（未分化リンパ腫キナーゼ）
ALL	acute lymphocytic leukemia（急性リンパ性白血病）
AVA	advanced vial access（改良型バイアルアクセス）
BID	bis in die（1日2回投与）
BLA	biologics license application（生物製剤承認申請）
BTD	breakthrough therapy designation（画期的新薬指定）
CAR NK	chimeric antigen receptor natural killer cell （キメラ抗原受容体-ナチュラルキラー細胞）
CD	Crohn's disease（クローン病）
CHMP	Committee for Medicinal Products for Human Use （欧州医薬品委員会）
CIDP	chronic inflammatory demyelinating polyradiculoneuropathy （慢性炎症性脱髄性多発根神経炎）
CML	chronic myeloid leukemia（慢性骨髄性白血病）
CMV	cytomegalovirus（サイトメガロウイルス）
CPF	complex perianal fistulas（複雑痔瘻）
CRC	colorectal cancer（大腸がん）
CRL	complete response letter（審査完了報告通知）
CRPC	castrate-resistant prostate cancer （去勢抵抗性前立腺がん）
CTCL	cutaneous T Cell Lymphoma（皮膚T細胞性リンパ腫）
cTTP	congenital thrombotic thrombocytopenic purpura （先天性血栓性血小板減少性紫斑病）
DOAC	direct oral anti-coagulation（直接作用型経口抗凝固薬）
DS	Dravet syndrome（ドラベ症候群）

DSQ	Dysphagia Symptom Questionnaire （嚥下障害症状質問票）
EGFR	epidermal growth factor receptor（上皮増殖因子受容体）
EMA	European Medicines Agency（欧州医薬品庁）
EoE	eosinophilic esophagitis（好酸球性食道炎）
ESS	Epworth Sleepiness Scale（エプワース眠気尺度）
FDA	the U.S. Food & Drug Administration（米国食品医薬品局）
FL	front line（フロントライン適応）
FSI	first subject in（最初の患者登録）
FY	fiscal year（年度）
GI	gastrointestinal（胃腸）
GvHD	graft versus host disease（移植片対宿主病）
H2H	head to head（直接比較）
HAE	hereditary angioedema（遺伝性血管浮腫）
HemA	hemophilia A（血友病A）
HL	Hodgkin lymphoma（ホジキンリンパ腫）
IARS	International Anesthesia Research Society （国際麻酔学研究学会）
IBD	inflammatory bowel disease（炎症性腸疾患）
IgA	immunoglobulin A（免疫グロブリンA）
IgAN	immunoglobulin A nephropathy（IgA腎症）
IgG	immunoglobulin G（免疫グロブリンG）
IND	investigational new drug（治験薬）
INN	international non-proprietary name（国際一般名称）
IRR	incidence rate ratio（発生率比）
IT	Intrathecal（髄腔内）
ITP	immune thrombocytopenic purpura （免疫性血小板減少性紫斑病）
iTTP	immune thrombotic thrombocytopenic purpura （免疫性血栓性血小板減少性紫斑病）
IV	intravenous（静脈投与）
JAK	Janus kinase（ヤヌスキナーゼ）
LCM	lifecycle management（ライフ・サイクル・マネジメント）
LGS	Lennox-Gastaut Syndrome（レノックス・ガストー症候群）

mCRC	metastatic colorectal cancer（転移性大腸がん）
mCRPC	metastatic castrate-resistant prostate cancer （転移性去勢抵抗性前立腺がん）
MDD	major depressive disorder（大うつ病）
MG	myasthenia gravis（重症筋無力症）
MLD	metachromatic leukodystrophy （異染色性白質ジストロフィー）
MM	multiple myeloma（多発性骨髄腫）
MMN	multifocal motor neuropathy（多巣性運動ニューロパチー）
MSA	multiple system atrophy（多系統萎縮症）
MWT	maintenance of wakefulness test（覚醒維持検査）
NASH	non-alcoholic steatohepatitis（非アルコール性脂肪肝炎）
ND	newly diagnosed（新たに診断された）
NDA	new drug application（新薬承認申請）
NEJM	New England Journal of Medicine
NK	natural killer（ナチュラルキラー）
NME	new molecular entity（新規候補物質）
NMPA	(China's) National Medical Products Administration （中国国家薬品监督管理局）
NSCLC	non-small cell lung cancer（非小細胞肺がん）
NT1 or 2	narcolepsy Type 1（ナルコレプシータイプ1） or narcolepsy Type 2（ナルコレプシータイプ2）
PASI	psoriasis area and severity index （乾癬の重症度を表す指標）
PFIC	progressive familial intrahepatic cholestasis （進行性家族性肝内胆汁うっ滞症）
Ph+ ALL	Philadelphia chromosome-positive acute lymphoblastic leukemia （フィラデルフィア染色体陽性ヒト急性リンパ性白血病）
PID	primary immunodeficiency（原発性免疫不全）
PK	pharmacokinetics（薬物動態）
PMDA	Japan's Pharmaceuticals and Medical Devices Agency （医薬品医療機器総合機構）
POC	proof of concept（概念実証）
PRIME	Priority medicines scheme by EMA （EMAによる優先審査制度）
PTCL-NOS	peripheral T-cell lymphoma not otherwise specified （末梢性T細胞リンパ腫 非特定型）
QD	quaque die, every day（1日1回投与）

R/R	relapsed/refractory（再発/難治性）
RTU	ready to use（調製済み）
SC	subcutaneous formulation（皮下投与製剤）
SCD	sickle cell disease（鎌状赤血球症）
SCPCD	severe congenital protein C deficiency （重症先天性プロテインC欠乏症）
SCT	stem cell transplant（幹細胞移植）
SID	secondary immunodeficiency（続発性免疫不全）
SLE	systemic lupus erythematosus （全身性エリデマトーデス）
SOC	standard of care（標準治療）
TEAE	treatment emergent adverse event （試験治療下での有害事象）
TKI	tyrosine kinase inhibitor （チロシンキナーゼ阻害剤）
TTP	thrombotic thrombocytopenic purpura （血栓性血小板減少性紫斑病）
TYK2	tyrosine kinase 2（チロシンキナーゼ2）
UC	ulcerative colitis（潰瘍性大腸炎）
VEGFR	vascular endothelial growth factor receptors （血管内皮増殖因子受容体）
vWD	von Willebrand disease （フォン・ヴィレブランド病）
WCR	weekly cataplexy rate（1週間あたりのカタプレキシ- （情動脱力発作）発現率）
WW	Worldwide（全世界）

財務補足資料



国際会計基準（IFRS）に準拠しない財務指標の定義

Core財務指標、CERベースの増減、フリー・キャッシュ・フロー、便宜的な米ドル換算の定義 [A-1](#)

EBITDA、調整後EBITDA、純有利子負債の定義 [A-2](#)

調整表およびその他の財務情報

2023年度上期 財務ベース業績（CERベース増減率を含む） [A-3](#)

2023年度第2四半期（7-9月）財務ベース業績（CERベース増減率を含む） [A-4](#)

2023年度上期 Core業績（CERベース増減率を含む） [A-5](#)

2023年度第2四半期（7-9月）Core業績（CERベース増減率を含む） [A-6](#)

2023年度上期 財務ベースからCoreへの調整表 [A-7](#)

2023年度第2四半期（7-9月）財務ベースからCoreへの調整表 [A-8](#)

2022年度上期 財務ベースからCoreへの調整表 [A-9](#)

2022年度第2四半期（7-9月）財務ベースからCoreへの調整表 [A-10](#)

2023年度上期 フリー・キャッシュ・フロー [A-11](#)

2023年度上期 純有利子負債/調整後EBITDA [A-12](#)

2022年度 純有利子負債/調整後EBITDA [A-13](#)

2023年度上期 当期利益からEBITDA/調整後EBITDAへの調整 [A-14](#)

2023年度第1四半期 当期利益からEBITDA/調整後EBITDA（LTM）への調整 [A-15](#)

2023年度上期 資本的支出、減価償却費及び償却費、減損損失 [A-16](#)

2023年度業績予想（詳細） [A-17](#)

2023年度業績予想 財務ベース営業利益からCore営業利益への調整表 [A-18](#)

2023年度前提為替レートおよび為替感応度 [A-19](#)

Core財務指標、CERベースの増減、フリー・キャッシュ・フロー、便宜的な米ドル換算の定義



Core売上収益は、売上収益から、重要性のある本業に起因しない（非中核）事象による影響を控除して算出します。

Core営業利益は、当期利益から、法人所得税費用、持分法による投資損益、金融損益、その他の営業収益及びその他の営業費用、製品に係る無形資産償却費及び減損損失を控除して算出します。その他、非定常的な事象に基づく影響、企業買収に係る会計処理の影響や買収関連費用など、本業に起因しない（非中核）事象による影響を調整します。

Core EPSは、当期利益から、Core営業利益の算出において控除された項目と営業利益以下の各科目のうち、非定常的もしくは特別な事象に基づく影響、本業に起因しない（非中核）事象による影響を調整します。これらには、条件付対価に係る公正価値変動（時間的価値の変動を含む）影響などが含まれます。さらに、これらの調整項目に係る税金影響を控除した後、報告期間の自己株式控除後の平均発行済株式総数で除して算出します。

CER (Constant Exchange Rate : 恒常為替レート)ベースの増減は、当年度の財務ベースの業績もしくはCore業績について、前年度に適用した為替レートを用いて換算することにより、前年度との比較において為替影響を控除するものです。

当社が、**フリー・キャッシュ・フロー**をお示しする理由は、証券アナリスト、投資家その他の関係者が製薬業界における各社の評価を行うに際して頻繁に用いられる流動性についての同様の指標として、本指標が投資家の皆様にとって有用であると考えているためです。本指標は、当社の経営陣が特に流動性要件を満たす能力及び資本配分方針をサポートする能力に関連している、当社の流動性及びキャッシュ・フローを評価する際にも使用しています。また、本指標は、投資家の理解にとって、当社の非中核事業及び投資ポートフォリオの戦略的な売却がどのようにキャッシュ・フローや流動性に貢献しているかを理解するうえで有用であると考えています。

当社のフリー・キャッシュ・フローは、営業活動によるキャッシュ・フローから、有形固定資産の取得、無形資産の取得、投資の取得及び即時的または一般的な業務用に使えないいかなるその他の現金を控除し、有形固定資産の売却による収入、投資や事業の売却による収入、売却による現金及び現金同等物の純額を加算し、調整しています。

フリー・キャッシュ・フローの有益性には、一例として、以下の限界があります。すなわち、(i) 製薬業界における他社を含む、他社において用いられている類似の名称を付した財務指標との比較可能性に欠け得るものです、(ii) 当社の、資本の使用又は配分を必要とする現在及び将来の契約上その他のコミットメントの影響は反映されていません、(iii) 投資や事業の売却による収入、売却による現金及び現金同等物の純額を加算分は、中核事業となる継続的な事業からの収入は反映していません。フリー・キャッシュ・フローは、IFRSに基づく指標である営業活動によるキャッシュ・フロー及びその他の流動性指標と切り離して考慮されてはならず、また、これらの代替ととらえられてはならないものです。IFRSに準拠した指標の中で、フリー・キャッシュ・フローは営業活動によるキャッシュ・フローが最も類似します。

便宜的な米ドル換算

財務補足情報における一部日本円表示の米ドルへの換算は、読者に対して便宜的に表示するためのものであり、ニューヨーク連邦準備銀行によって認証されている2023年9月29日時点の換算レート「Noon Buying Rate : 1米ドル149.43円」で換算しております。便宜的な米ドル換算に用いられている換算レートおよび方法は、要約四半期連結財務諸表の作成で用いられた国際会計基準（IFRS）に準拠した換算レートおよび方法とは異なります。また、これらの米ドル換算は、円貨額が上記もしくはそれ以外の換算レートを用いて米ドルへ転換できるということを意味するものではありません。

EBITDA、調整後EBITDA、純有利子負債の定義



EBITDA及び調整後EBITDA

当社がEBITDA及び調整後EBITDAをお示しする理由は、これらの指標が証券アナリスト、投資家その他の関係者が製薬業界における各社の評価を行う際に頻繁に用いられるものであり、有用と考えられることにあります。また、調整後EBITDAは、変化に富み予測が困難であるが故に経営とは無関係な諸要素により不透明となり、業績に実質的な影響を与え得る、また、継続的に期間毎の業績を評価することに困難にし得る事業全体の動向を、投資家の皆様が把握する際に有用と考えられます。

EBITDA及び調整後EBITDAは、IFRSに基づく指標である営業利益及び当期利益等の業績指標と切り離して考慮されてはならず、また、これらの代替ととらえられてはならないものです。これらの指標は、他社において示されている類似の名称を付した財務指標との比較可能性に欠け得ます。

EBITDA及び調整後EBITDAの有益性には、一例として、以下の限界があります。すなわち、(i)製薬業界における他社を含む、他社において用いられている類似の名称を付した財務指標との比較可能性に欠け得るものです。また、(ii)業績評価において重視され得る一定の財務情報、例えば、企業買収や無形資産の償却による影響を除外しております。さらに、(iii)一定期間において継続して生じ得る一定の事項を除外しており、また、(iv)投資家において当社の長期的な観点からの経営には無関係ととらえる事項を必ずしも除外しておりません。これらのIFRSに準拠しない財務指標は、IFRSに準拠する当期利益（損失）と同視してはならず、また、これらに代わるものとしてとらえてはなりません。投資家の皆様におかれましては、当社の財務諸表全体を把握し、当社業績、事業価値及び収益予想を評価する基礎となる指標としてはIFRS準拠財務指標に依拠し、また、EBITDA及び調整後EBITDAは補足的な指標として用いられるようお願い申し上げます。

当社においては、EBITDAは、法人所得税費用、減価償却費及び償却費、並びに純支払利息控除前の連結当期利益を指します。また、調整後EBITDAは、減損損失、その他の営業収益・費用（減価償却費及び償却費を除く）、金融収益・費用（純支払利息を除く）、持分法による投資損益及び企業結合会計影響や取引関連費用などの当社の中核事業に関連しないその他の項目を除外するように調整されたEBITDAを指します。

IFRSに準拠した指標の中では当期利益が最も類似します。IFRSにおいて最も類似した指標との照合については、当期利益からEBITDA/調整後EBITDAへの調整をご参照下さい。

純有利子負債

当社が、純有利子負債をお示しする理由は、当社の経営陣が、当社の現金及び現金同等物控除後の負債をモニター及び分析するために本指標を使用し、また当社のレバレッジをモニターするために本指標を調整後EBITDAと併せて使用しており、投資家の皆様にとって有用であると考えているためです。また、負債についての同様の指標が、証券アナリスト、投資家その他の関係者が製薬業界における各社の評価を行う際に頻繁に用いられるものであると考えています。

当社の純有利子負債は、以下により算出しています。まず、連結財政状態計算書に記載されている社債及び借入金の流動部分と非流動部分合計を計算します。その上で、(i) 期初に残存する外貨建て負債を直近12か月の期中平均レートを用いて換算し、報告期間中に計上した新規の外貨建て負債および償還した既存の外貨建て負債については対応するスポットレートを用いて換算するものであり、当社の経営陣が当社のレバレッジをモニターするために使用する方法論を反映しています。また、(ii) S&Pグローバル・レーティング・ジャパンの格付手法に基づく株式に似た特徴を評価して、S&Pグローバル・レーティング・ジャパンが2019年6月に発行したハイブリッド債（劣後債）の元本総額5,000億円に対して、50%のエクイティクレジットを適用しています。この数字から、ワクチン運営および売上債権の売却プログラムに関係して当社が第三者に代わり一時的に保有していた現金を除いた現金及び現金同等物、およびその他の金融資産に計上され公正価値ヒエラルキーのレベル1に区分される債券投資を控除し、純有利子負債を算出しています。

純有利子負債の有益性には、一例として、以下の限界があります。すなわち、(i) 製薬業界における他社を含む、他社において用いられている類似の名称を付した財務指標との比較可能性に欠け得るものです、(ii) 当社の負債に支払われる利息の金額を反映していません、(iii) 当社の負債に対する当社の前払い能力又は償還能力の制限を反映していません、(iv) 当社が現金同等物を現金に換金する際に、ある通貨から他の通貨に換金する際に、又は当社グループ内で現金を移動する際に、当社が負担する可能性のある手数料、費用又はその他の費用を反映していません、(v) 有利子負債には、当社のローン契約と整合性のある平均為替レートが適用されますが、これは当社がある通貨を他の通貨に換金することができる実際の為替レートを反映していません、(vi) 当社は合理的であると考えていますが、当社の劣後債の金額はそれらの負債性に影響を及ぼさないことから、持分法による投資利益を反映しています。純有利子負債は、IFRSに基づく指標である社債、借入金及びその他の負債指標と切り離して考慮されてはならず、また、これらの代替ととらえられてはならないものです。

IFRSに準拠した指標の中で、純有利子負債は社債と借入金が最も類似します。IFRSにおいて最も類似した指標との照合については、純有利子負債/調整後EBITDAをご参照下さい。

2023年度上期 財務ベース業績 (CERベース増減率を含む)



(億円、EPS以外)	2022年度 上期	2023年度 上期	対前年同期			(百万米ドル、 EPS以外) 2023年度上期 便宜的な米ドル換算
			AERベース		CERベース	
			増減額	増減率	増減率	
売上収益	19,748	21,017	1,269	6.4 %	1.4 %	14,065
売上原価	△5,983	△6,647	△664	△11.1 %	△6.0 %	△4,448
売上総利益	13,764	14,370	606	4.4 %	△0.5 %	9,617
対売上収益比率	69.7 %	68.4 %		△1.3 pp	△1.4 pp	68.4 %
販売費及び一般管理費	△4,802	△5,011	△209	△4.3 %	0.8 %	△3,353
研究開発費	△2,978	△3,467	△489	△16.4 %	△9.6 %	△2,320
製品に係る無形資産償却費	△2,408	△2,539	△131	△5.4 %	1.5 %	△1,699
製品に係る無形資産減損損失	△328	△1,158	△829	△252.5 %	△226.2 %	△775
その他の営業収益	135	99	△36	△26.7 %	△27.6 %	66
その他の営業費用	△834	△1,102	△269	△32.2 %	△27.1 %	△738
営業利益	2,550	1,192	△1,357	△53.2 %	△50.6 %	798
対売上収益比率	12.9 %	5.7 %		△7.2 pp	△6.6 pp	5.7 %
金融収益	757	243	△514	△67.9 %	△68.3 %	163
金融費用	△1,093	△1,061	32	2.9 %	1.9 %	△710
持分法による投資損益	△14	16	30	—	—	11
税引前四半期利益	2,200	391	△1,810	△82.3 %	△79.8 %	261
法人所得税費用	△533	24	557	—	86.0 %	16
四半期利益	1,668	414	△1,253	△75.2 %	△77.8 %	277
非支配持分	0	△1	△1	—	—	△0
四半期利益（親会社の所有者持分）	1,668	414	△1,254	△75.2 %	△77.8 %	277
基本的 EPS（円または米ドル）	107.62	26.51	△81.12	△75.4 %	△78.0 %	0.18

前年同期に対する、国際会計基準に準拠した実勢レート（Actual Exchange Rate）ベースの増減額および増減率は「AER」の表記で示し、国際会計基準に準拠しない恒常為替レート（Constant Exchange Rate）ベースの増減率は「CER」の表記で示しています。「CERベースの増減」の定義については、A-1「Core財務指標、CERベースの増減、フリー・キャッシュ・フロー、便宜的な米ドル換算の定義」をご参照ください。

対前年同期の増減率（％）は、利益に対してプラスであれば正で、利益に対してマイナスであれば負で表示しています。

2023年度第2四半期（7-9月） 財務ベース業績 （CERベース増減率を含む）



(億円、EPS以外)	2022年度 第2四半期 (7-9月)	2023年度 第2四半期 (7-9月)	対前年同期			(百万米ドル、 EPS以外) 2023年度 第2四半期(7-9月) 便宜的な米ドル換算
			AERベース		CERベース	
			増減額	増減率	増減率	
売上収益	10,023	10,431	408	4.1 %	△0.8 %	6,980
売上原価	△3,054	△3,436	△381	△12.5 %	△7.3 %	△2,299
売上総利益	6,969	6,995	26	0.4 %	△4.3 %	4,681
対売上収益比率	69.5 %	67.1 %		△2.5 pp	△2.5 pp	67.1 %
販売費及び一般管理費	△2,487	△2,530	△42	△1.7 %	3.4 %	△1,693
研究開発費	△1,541	△1,839	△298	△19.3 %	△12.4 %	△1,231
製品に係る無形資産償却費	△1,238	△1,307	△69	△5.6 %	1.1 %	△875
製品に係る無形資産減損損失	△186	△1,095	△909	△489.0 %	△444.0 %	△733
その他の営業収益	80	57	△23	△29.1 %	△31.4 %	38
その他の営業費用	△552	△774	△222	△40.2 %	△35.9 %	△518
営業利益	1,044	△493	△1,538	—	—	△330
対売上収益比率	10.4 %	△4.7 %		△15.2 pp	△14.4 pp	△4.7 %
金融収益	148	94	△54	△36.7 %	△25.7 %	63
金融費用	△538	△581	△42	△7.8 %	△16.1 %	△389
持分法による投資損益	△9	20	29	—	—	14
税引前四半期利益	645	△960	△1,605	—	—	△642
法人所得税費用	△28	480	508	—	—	321
四半期利益	617	△480	△1,097	—	—	△321
非支配持分	0	△1	△1	—	—	△0
四半期利益（親会社の所有者持分）	617	△480	△1,098	—	—	△321
基本的 EPS（円または米ドル）	39.77	△30.68	△70.46	—	—	△0.21

前年同期に対する、国際会計基準に準拠した実勢レート（Actual Exchange Rate）ベースの増減額および増減率は「AER」の表記で示し、国際会計基準に準拠しない恒常為替レート（Constant Exchange Rate）ベースの増減率は「CER」の表記で示しています。「CERベースの増減」の定義については、A-1「Core財務指標、CERベースの増減、フリー・キャッシュ・フロー、便宜的な米ドル換算の定義」をご参照ください。

対前年同期の増減率（％）は、利益に対してプラスであれば正で、利益に対してマイナスであれば負で表示しています。

2023年度上期 Core業績 (CERベース増減率を含む)



(億円、EPS以外)	2022年度 上期	2023年度 上期	対前年同期			(百万米ドル、 EPS以外) 2023年度上期 便宜的な米ドル換算
			AERベース		CERベース	
			増減額	増減率	増減率	
売上収益	19,748	21,017	1,269	6.4 %	1.4 %	14,065
売上原価	△5,716	△6,648	△933	△16.3 %	△10.9 %	△4,449
売上総利益	14,032	14,369	337	2.4 %	△2.4 %	9,616
対売上収益比率	71.1 %	68.4 %		△2.7 pp	△2.7 pp	68.4 %
販売費及び一般管理費	△4,805	△5,014	△209	△4.3 %	0.8 %	△3,356
研究開発費	△2,975	△3,467	△492	△16.5 %	△9.7 %	△2,320
営業利益	6,252	5,888	△364	△5.8 %	△9.5 %	3,940
対売上収益比率	31.7 %	28.0 %		△3.6 pp	△3.4 pp	28.0 %
金融収益	326	240	△86	△26.4 %	△27.2 %	161
金融費用	△1,008	△878	130	12.9 %	18.9 %	△588
持分法による投資損益	27	23	△4	△14.4 %	△13.7 %	15
税引前四半期利益	5,596	5,272	△324	△5.8 %	△8.8 %	3,528
法人所得税費用	△1,129	△1,194	△66	△5.8 %	△11.0 %	△799
四半期利益	4,467	4,078	△389	△8.7 %	△13.8 %	2,729
非支配持分	0	△1	△1	—	—	△0
四半期利益（親会社の所有者持分）	4,467	4,077	△390	△8.7 %	△13.8 %	2,728
基本的 EPS（円または米ドル）	288	261	△27	△9.4 %	△14.4 %	1.75

前年同期に対する、国際会計基準に準拠した実勢レート（Actual Exchange Rate）ベースの増減額および増減率は「AER」の表記で示し、国際会計基準に準拠しない恒常為替レート（Constant Exchange Rate）ベースの増減率は「CER」の表記で示しています。「CERベースの増減」の定義については、A-1「Core財務指標、CERベースの増減、フリー・キャッシュ・フロー、便宜的な米ドル換算の定義」をご参照ください。

対前年同期の増減率（％）は、利益に対してプラスであれば正で、利益に対してマイナスであれば負で表示しています。

2023年度第2四半期（7-9月） Core業績 （CERベース増減率を含む）



(億円、EPS以外)	2022年度 第2四半期 (7-9月)	2023年度 第2四半期 (7-9月)	対前年同期			(百万米ドル、 EPS以外) 2023年度 第2四半期(7-9月) 便宜的な米ドル換算
			AERベース		CERベース	
			増減額	増減率	増減率	
売上収益	10,023	10,431	408	4.1 %	△0.8 %	6,980
売上原価	△2,933	△3,436	△503	△17.1 %	△11.7 %	△2,299
売上総利益	7,090	6,995	△95	△1.3 %	△5.9 %	4,681
対売上収益比率	70.7 %	67.1 %		△3.7 pp	△3.7 pp	67.1 %
販売費及び一般管理費	△2,488	△2,531	△43	△1.7 %	3.3 %	△1,694
研究開発費	△1,540	△1,839	△299	△19.4 %	△12.6 %	△1,231
営業利益	3,061	2,624	△437	△14.3 %	△17.3 %	1,756
対売上収益比率	30.5 %	25.2 %		△5.4 pp	△5.1 pp	25.2 %
金融収益	89	92	3	3.2 %	21.6 %	61
金融費用	△500	△445	56	11.1 %	12.7 %	△298
持分法による投資損益	17	15	△2	△11.6 %	△11.1 %	10
税引前四半期利益	2,667	2,287	△380	△14.3 %	△16.8 %	1,530
法人所得税費用	△442	△543	△101	△22.9 %	△42.9 %	△363
四半期利益	2,225	1,744	△482	△21.6 %	△28.6 %	1,167
非支配持分	0	△1	△1	—	—	△0
四半期利益（親会社の所有者持分）	2,225	1,743	△482	△21.7 %	△28.6 %	1,167
基本的 EPS（円または米ドル）	143	111	△32	△22.3 %	△29.2 %	0.75

前年同期に対する、国際会計基準に準拠した実勢レート（Actual Exchange Rate）ベースの増減額および増減率は「AER」の表記で示し、国際会計基準に準拠しない恒常為替レート（Constant Exchange Rate）ベースの増減率は「CER」の表記で示しています。「CERベースの増減」の定義については、A-1「Core財務指標、CERベースの増減、フリー・キャッシュ・フロー、便宜的な米ドル換算の定義」をご参照ください。

対前年同期の増減率（％）は、利益に対してプラスであれば正で、利益に対してマイナスであれば負で表示しています。

2023年度上期 財務ベースからCoreへの調整表



(億円、EPSおよび株式数以外)	財務ベース	財務ベースからCoreへの調整				CORE
		無形資産に係る償却費	無形資産に係る減損損失	その他の営業収益／費用	その他	
売上収益	21,017					21,017
売上原価	△6,647				△1	△6,648
売上総利益	14,370				△1	14,369
販売費及び一般管理費	△5,011				△3	△5,014
研究開発費	△3,467				0	△3,467
製品に係る無形資産償却費	△2,539	2,539				—
製品に係る無形資産減損損失	△1,158		1,158			—
その他の営業収益	99			△99		—
その他の営業費用	△1,102			1,102		—
営業利益	1,192	2,539	1,158	1,004	△5	5,888
対売上収益比率	5.7%					28.0%
金融収益及び費用（純額）	△818				180	△638
持分法による投資損益	16				7	23
税引前四半期利益	391	2,539	1,158	1,004	181	5,272
法人所得税費用	24	△541	△256	△165	△256	△1,194
非支配持分	△1					△1
四半期利益（親会社の所有者持分）	414	1,998	901	838	△75	4,077
基本的EPS（円）	27					261
株式数（百万）	1,561					1,561

2023年度 第2四半期（7-9月） 財務ベースからCoreへの調整表



(億円、EPSおよび株式数以外)	財務ベース	財務ベースからCoreへの調整				CORE
		無形資産に係る償却費	無形資産に係る減損損失	その他の営業収益／費用	その他	
売上収益	10,431					10,431
売上原価	△3,436				△0	△3,436
売上総利益	6,995				△0	6,995
販売費及び一般管理費	△2,530				△2	△2,531
研究開発費	△1,839				0	△1,839
製品に係る無形資産償却費	△1,307	1,307				—
製品に係る無形資産減損損失	△1,095		1,095			—
その他の営業収益	56			△56		—
その他の営業費用	△773			773		—
営業利益	△493	1,307	1,095	717	△2	2,624
対売上収益比率	△4.7%					25.2%
金融収益及び費用（純額）	△487				134	△353
持分法による投資損益	20				△5	15
税引前四半期利益	△960	1,307	1,095	717	127	2,287
法人所得税費用	480	△278	△243	△101	△401	△543
非支配持分	△1					△1
四半期利益（親会社の所有者持分）	△480	1,029	853	616	△274	1,743
基本的EPS（円）	△31					111
株式数（百万）	1,565					1,565

2022年度上期 財務ベースからCoreへの調整表



(億円、EPSおよび株式数以外)	財務ベース	財務ベースからCoreへの調整				CORE
		無形資産に係る償却費	無形資産に係る減損損失	その他の営業収益／費用	その他	
売上収益	19,748					19,748
売上原価	△5,983				268	△5,716
売上総利益	13,764				268	14,032
販売費及び一般管理費	△4,802				△3	△4,805
研究開発費	△2,978				3	△2,975
製品に係る無形資産償却費	△2,408	2,408				—
製品に係る無形資産減損損失	△328		328			—
その他の営業収益	135			△135		—
その他の営業費用	△834			834		—
営業利益	2,550	2,408	328	699	267	6,252
対売上収益比率	12.9%					31.7%
金融収益及び費用（純額）	△ 336				△347	△683
持分法による投資損益	△14				40	27
税引前四半期利益	2,200	2,408	328	699	△40	5,596
法人所得税費用	△533	△515	△70	△131	120	△1,129
非支配持分	0					0
四半期利益（親会社の所有者持分）	1,668	1,893	258	568	80	4,467
基本的EPS（円）	108					288
株式数（百万）	1,549					1,549

2022年度 第2四半期（7-9月） 財務ベースからCoreへの調整表



(億円、EPSおよび株式数以外)	財務ベース	財務ベースからCoreへの調整				CORE
		無形資産に係る償却費	無形資産に係る減損損失	その他の営業収益／費用	その他	
売上収益	10,023					10,023
売上原価	△ 3,054				121	△ 2,933
売上総利益	6,969				121	7,090
販売費及び一般管理費	△ 2,487				△ 1	△ 2,488
研究開発費	△ 1,541				2	△ 1,540
製品に係る無形資産償却費	△ 1,238	1,238				—
製品に係る無形資産減損損失	△ 186		186			—
その他の営業収益	80			△ 80		—
その他の営業費用	△ 552			552		—
営業利益	1,044	1,238	186	472	121	3,061
対売上収益比率	10.4%					30.5%
金融収益及び費用（純額）	△ 390				△ 21	△ 411
持分法による投資損益	△ 9				26	17
税引前四半期利益	645	1,238	186	472	126	2,667
法人所得税費用	△ 28	△ 265	△ 39	△ 91	△ 19	△ 442
非支配持分	0					0
四半期利益（親会社の所有者持分）	617	973	147	380	107	2,225
基本的EPS（円）	40					143
株式数（百万）	1,552					1,552

2023年度上期 フリー・キャッシュ・フロー



(億円)	2022年度 上期	2023年度 上期	対前年同期		(百万米ドル) 2023年度上期 便宜的な米ドル換算
当期利益	1,668	414	△1,253	△75.2%	277
減価償却費、償却費及び減損損失	3,621	4,809	1,188		3,218
運転資本増減（△は増加）	△1,590	△2,007	△417		△1,343
法人税等の支払額	△1,154	△1,290	△136		△864
法人所得税等の還付及び還付加算金の受取額	62	101	39		68
その他	446	886	440		593
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,052	2,913	△139	△4.6%	1,949
当社が第三者に代わり一時的に保有していたキャッシュの調整 ^(注1)	1,168	△302	△1,471		△202
有形固定資産の取得による支出	△714	△838	△124		△561
有形固定資産の売却による収入	1	83	82		56
無形資産の取得による支出	△676	△2,555	△1,879		△1,710
投資の取得による支出	△47	△23	24		△15
投資の売却、償還による収入	184	6	△178		4
事業売却による収入（処分した現金及び現金同等物控除後）	—	4	4		2
フリー・キャッシュ・フロー	2,969	△711	△3,680	—	△476

(注1) 一時的なキャッシュの調整は、ワクチン運営および売上債権の売却プログラムに關係して当社が第三者に代わり一時的に保有していた現金の変動を指します。

2023年度上期 純有利子負債/調整後EBITDA



純有利子負債/調整後EBITDA倍率

(億円)	2023年度 上期
現金及び現金同等物およびレベル1に区分される債券投資 ^(注1)	1,620
連結財政状態計算書上の負債簿価	△46,792
ハイブリッド社債の50%資本性認定 為替調整 ^(注2)	2,500
有利子負債 ^(注3)	2,167
純有利子負債	△40,505
純有利子負債/調整後EBITDA倍率	2.9x
調整後EBITDA	14,062

キャッシュの純増減

(億円)	2022年度 上期	2023年度 上期	対前年同期	
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,052	2,913	△139	△4.6%
有形固定資産の取得による支出	△714	△838		
有形固定資産の売却による収入	1	83		
無形資産の取得による支出	△676	△2,555		
投資の取得による支出	△47	△23		
投資の売却、償還による収入	184	6		
事業売却による収入 (処分した現金及び現金同等物控除後)	—	4		
短期借入金及びコマーシャルペーパーの純増加額	—	1,100		
長期借入れによる収入	—	1,000		
長期借入金の返済による支出	△1	△1,002		
社債の償還による支出	△268	△1,459		
社債に係る金利通貨スワップの決済による収入	—	601		
自己株式の取得による支出	△269	△23		
利息の支払額	△527	△497		
配当金の支払額	△1,400	△1,398		
その他	△178	△255		
現金の増減額 (△は減少)	△843	△2,342	△1,500	△177.9%

- (注1) ワクチン運営および売上債権の売却プログラムに関して当社が第三者に代わり一時的に保有していた現金を除いた現金及び現金同等物、およびその他の金融資産に計上され公正価値ヒエラルキーのレベル1に区分される債券投資を指します。
2023年度第1四半期より、その他の金融資産に計上され公正価値ヒエラルキーのレベル1に区分される債券投資を、純有利子負債の計算における有利子負債からの控除項目に含めております。なお、同様の方法を用いて計算した場合においても2022年度末およびそれ以前の会計期間における純有利子負債に変更はありません。
- (注2) 期中平均レートで換算される調整後EBITDA計算と整合させるため、期初から期中残存する外貨建て負債を期中平均レートを用いて換算しております。
報告期間中に計上した新規の外貨建て負債および償還した既存の外貨建て負債については当該日の対応するスポットレートを用いて換算しております。
- (注3) 流動・非流動の社債および借入金。2019年6月に5,000億円のハイブリッド債を発行、格付け機関から認定された50%の資本性である2,500億円を負債から控除。
また、負債償却と為替影響に関連した非資金性の調整を含む。

2022年度 純有利子負債/調整後EBITDA



純有利子負債/調整後EBITDA倍率

(億円)	2022年度
現金および現金同等物 ^(注1)	4,077
連結財政状態計算書上の負債簿価	△43,823
ハイブリッド社債の50%資本性認定 為替調整 ^(注2)	2,500
有利子負債 ^(注3)	85
純有利子負債	△37,161
TAK-279の取得に関連する一時金支払 ^(注4)	4,004
純有利子負債（TAK-279の取得に関連する一時金を除く）	△33,157
純有利子負債/調整後EBITDA倍率	2.6x
純有利子負債/調整後EBITDA倍率 （TAK-279の取得に関連する一時金を除く）	2.3x
調整後EBITDA	14,218

キャッシュの純増減

(億円)	2021年度	2022年度	対前年度	
営業活動によるキャッシュ・フロー	11,231	9,772	△1,459	△13.0%
有形固定資産の取得による支出	△1,233	△1,407		
有形固定資産の売却による収入	18	10		
無形資産の取得による支出	△628	△4,930		
投資の取得による支出	△83	△102		
投資の売却、償還による収入	169	223		
事業取得による支出 （取得した現金及び現金同等物控除後）	△497	—		
事業売却による収入 （処分した現金及び現金同等物控除後）	282	80		
短期借入金及びコマーシャルペーパーの純減少額	△0	400		
長期借入れによる収入	—	750		
長期借入金の返済による支出	△4,141	△752		
社債の発行による収入	2,493	—		
社債の償還による支出	△3,960	△2,815		
自己株式の取得による支出	△775	△269		
利息の支払額	△1,082	△1,086		
配当金の支払額	△2,837	△2,794		
その他	△411	△470		
現金の増減額（△は減少）	△1,453	△3,391	△1,938	△133.4%

(注1) 各期末日の翌日から1年以内に償還期限の到来する短期投資を含み、ワクチン運営および売上債権の売却プログラムに関係して当社が第三者に代わり保有していた現金を除く。

(注2) 期中平均レートで換算される調整後EBITDA計算と整合させるため、期初から期中残存する外貨建て負債を期中平均レートを用いて換算しております。
報告期間中に計上した新規の外貨建て負債および償還した既存の外貨建て負債については当該日の対応するスポットレートを用いて換算しております。

(注3) 流動・非流動の社債および借入金。2019年6月に5,000億円のハイブリッド債を発行、格付け機関から認定された50%の資本性である2,500億円を負債から控除。
また、負債償却と為替影響に関連した非資金性の調整を含む。

(注4) 当項目は、2023年2月にTAK-279の取得に関連する一時金として支払った40億米ドルの一部である30億米ドルを、2023年3月31日期末為替レートである1米ドル133.48円を用いて日本円に換算しております。

2023年度上期 当期利益からEBITDA/調整後EBITDAへの調整



(億円)	2022年度 上期	2023年度 上期	対前年同期	
当期利益	1,668	414	△1,253	△75.2%
法人所得税費用	533	△24		
減価償却費及び償却費	3,261	3,542		
純支払利息	575	540		
EBITDA	6,037	4,472	△1,565	△25.9%
減損損失	360	1,267		
その他の営業収益・費用（減価償却費、償却費及びその他の非資金項目を除く）	654	896		
金融収益・費用（純支払利息を除く）	△240	278		
持分法による投資損益	14	△16		
その他の調整項目	555	325		
COVID-19に係る非中核費用	56	—		
Shire社の買収で取得した棚卸資産の公正価値調整による利益への影響	219	—		
その他の費用 ^(注1)	280	325		
調整後EBITDA	7,379	7,222	△156	△2.1%

(注1) 株式報酬にかかる非資金性の費用とその他の一過性の非資金性の費用の調整を含みます。

2023年度上期 当期利益からEBITDA/調整後EBITDA（LTM）への調整



(億円)	2022年度 通期 (4-3月)	2022年度 上期 (4-9月)	2023年度 上期 (4-9月)	2023年度 上期 LTM ^(注1) (10-9月)
当期利益	3,170	1,668	414	1,917
法人所得税費用	581	533	△24	24
減価償却費及び償却費	6,644	3,261	3,542	6,925
純支払利息	1,115	575	540	1,079
EBITDA	11,510	6,037	4,472	9,945
減損損失	644	360	1,267	1,551
その他の営業収益・費用（減価償却費、償却費及びその他の非資金項目を除く）	1,090	654	896	1,333
金融収益・費用（純支払利息を除く）	△47	△240	278	471
持分法による投資損益	86	14	△16	57
その他の調整項目	935	555	325	705
COVID-19に係る非中核費用	99	56	—	43
Shire社の買収で取得した棚卸資産の公正価値調整による利益への影響	249	219	—	30
その他の費用 ^(注2)	587	280	325	631
調整後EBITDA	14,218	7,379	7,222	14,062

(注1) 2023年9月までの過去12ヶ月（LTM: Last Twelve Months）、2022年度通期から2022年度上期を控除し、2023年度上期を加算して算出しています。

(注2) 株式報酬にかかる非資金性の費用とその他の一過性の非資金性の費用の調整を含みます。

2023年度上期 資本的支出、減価償却費及び償却費、減損損失



(億円)	2022年度 上期	2023年度 上期	対前年同期		2023年度今回公表予想 (2023年10月26日)
資本的支出 ^(注1)	1,390	3,393	2,003	144.1%	4,800 - 5,300 ^(注3)
有形固定資産の増加額	714	838	124	17.3%	
無形資産の増加額	676	2,555	1,879	278.1%	
減価償却費及び償却費	3,261	3,542	281	8.6%	6,800
有形固定資産の減価償却費 ^(注2) (A)	734	848	114	15.5%	
無形資産の償却費 (B)	2,527	2,694	167	6.6%	
うち、製品に係る償却費 (C)	2,408	2,539	131	5.4%	5,000
うち、製品以外に係る償却費 (D)	119	155	36	30.2%	
減価償却費及び償却費 (製品に係る償却費を除く) (A)+(D)	853	1,003	150	17.6%	1,800
減損損失	360	1,267	908	252.4%	
うち、製品に係る減損損失	328	1,158	829	252.5%	1,200
製品に係る無形資産償却費及び減損損失	2,736	3,697	960	35.1%	6,200

(注1) キャッシュベース

(注2) 投資不動産に係る減価償却費を含む。

(注3) 今回公表予想には、Nimbus社からのTAK-279の取得（1,341億円）およびHUTCHMED社からのフルキンチニブのライセンス権の取得（551億円）に関連する支出を反映しています。

2023年度業績予想（詳細）



(億円)		2023年度 当初公表予想 (2023年5月11日)	2023年度 今回公表予想 (2023年10月26日)	対当初公表予想		増減理由
財務ベース	売上収益	38,400	39,800	1,400	3.6%	主に前提為替レートの変更による為替影響
	研究開発費	△6,430	△6,800	△370	△5.8%	為替影響
	製品に係る無形資産償却費	△4,800	△5,000	△200	△4.2%	為替影響
	製品に係る無形資産減損損失	△500	△1,200	△700	△140.0%	上期に計上したアロフィセルやEXKIVITYなどの減損損失を反映
	その他の営業収益	140	140	—	—%	
	その他の営業費用	△1,500	△1,800	△300	△20.0%	当初公表予想に織り込んでいなかった上期に計上された引当金を反映
	営業利益	3,490	2,250	△1,240	△35.5%	主に上記の減損損失や引当金および為替影響
	金融収益及び費用（純額）	△1,650	△1,570	80	4.8%	
	税引前当期利益	1,850	700	△1,150	△62.2%	営業利益影響を反映
	当期利益（親会社の所有者帰属分）	1,420	930	△490	△34.5%	上期の税金費用の減額（635億円）を反映した前提税率の変更
基本的EPS（円）		91	59	△31	△34.5%	
Core売上収益 ^(注1)		38,400	39,800	1,400	3.6%	主に前提為替レートの変更による為替影響
Core営業利益 ^(注1)		10,150	10,150	—	—%	
Core EPS（円）		434	447	13	3.1%	前提税率の変更
フリー・キャッシュ・フロー		4,000～5,000	4,000～5,000			2023年度今回公表予想には、Nimbus社からのTAK-279の取得（1,341億円）およびHUTCHMED社からのフルキンチニブのライセンス権の取得（551億円）に関連する支出を反映
資本的支出（キャッシュ・フロー・ベース）		△4,800 ～ △5,300	△4,800 ～ △5,300			
有形固定資産の減価償却費及び無形資産償却費 （製品に係る無形資産償却費を除く）		△1,700	△1,800	△100	△5.9%	為替影響
調整後EBITDAに対する現金税金の税率 （事業売却を除く）		10%台半ばから後半	10%台半ばから後半			
米ドル/円		131	137	6	4.6%	
ユーロ/円		141	145	4	2.8%	

（注1）定義はA-1「Core財務指標、CERベースの増減、フリー・キャッシュ・フロー、便宜的な米ドル換算の定義」を、調整表はA-18「2023年度業績予想 財務ベース営業利益からCore営業利益への調整表」をご参照ください。

2023年度業績予想 財務ベース営業利益からCore営業利益への調整表



(億円)	財務ベース	財務ベースからCoreへの調整				Core
		無形資産 に係る 償却費	無形資産 に係る 減損損失	その他の 営業収益及び 営業費用	その他	
売上収益	39,800					39,800
売上原価						
売上総利益						
販売費及び一般管理費及び研究開発費					40	
製品に係る無形資産償却費	△5,000	5,000				—
製品に係る無形資産減損損失	△1,200		1,200			—
その他の営業収益	140			△140		—
その他の営業費用	△1,800			1,800		—
営業利益	2,250	5,000	1,200	1,660	40	10,150

2023年度前提為替レートおよび為替感応度



平均レート（円）				為替円安影響（2023年10月～2024年3月）（億円）				
	2022年度 上期 実績 (4-9月)	2023年度 上期 実績 (4-9月)	2023年度 前提 (4-3月)		売上収益 (国際会計基準)	営業利益 (国際会計基準)	当期利益 (国際会計基準)	Core営業利益 (国際会計基準に 非準拠)
米ドル	131	140	137	1%為替円安影響	95.2	3.5	△0.5	24.8
				1円為替円安影響	69.5	2.6	△0.4	18.1
ユーロ	138	153	145	1%為替円安影響	27.4	△18.8	△15.3	△14.3
				1円為替円安影響	18.9	△12.9	△10.5	△9.9
ロシアルーブル	2.1	1.6	1.6	1%為替円安影響	2.1	1.1	0.9	1.3
中国元	19.7	19.8	19.8		9.9	5.8	4.4	5.8
ブラジルリアル	26.3	28.5	28.5		5.4	3.3	2.5	3.3



Better Health, Brighter Future

© 2023 Takeda Pharmaceutical Company Limited. All rights reserved.